

日本医師会 男女共同参画についての
男性医師の意識調査
報告書

令和8年5月

日本医師会男女共同参画委員会

はじめに

男女共同参画委員会では、平成 26 年に「男女共同参画についての男性医師の意識調査」を実施いたしました。平成 20 年に実施した「女性医師の勤務環境の現況に関する調査」において、女性医師のパートナーの 7 割は男性医師であり、女性医師は就業継続支援の一つとして、上司や同僚、家族の理解や支援を求めているという結果を受け、男性医師を対象とした意識調査の必要性を感じたことから実施したものでした。

令和になり我が国では初の女性総理大臣が誕生しました。男女共同参画という名称は古いのではないかというご指摘を度々いただき、性に対する意識は着実に変化しつつあると感じる一方で、果たしてそうした変化が医療の現場への程度影響を与えているのでしょうか。

上述した女性医師を対象とした調査はその後 8 年毎に実施しており、折しも令和 6 年度に 3 回目の調査を実施したところでした。令和 6 年は男性医師の意識調査を実施してから 10 年目であり、女性の勤務環境、男性の意識変化を比較しながら課題を検討できる機会になると、本調査を実施した次第です。

男女共同参画委員会では、今期に実施した各種調査の結果を活用し、勤務環境改善のための具体的な支援の在り方を検討し、男女ともに働きやすい勤務環境を具現化していく提言へとつなげていきたいと考えております。今回も多忙な中、時間を割いてご回答をお寄せくださいました男性医師の皆様に、心より感謝を申し上げます。

令和 8 年 5 月

日本医師会男女共同参画委員会

委員長 小泉ひろみ

日本医師会男女共同参画委員会

委員長	小泉 ひろみ	秋田県医師会会長
副委員長	今野 信太郎	三重県医師会常任理事
委員	市川 菊乃	東京都医師会理事
	大坪 由里子	東京都医師会理事
	笠原 幹司	大阪府医師会理事
	近藤 由香	岐阜県医師会常務理事
	瀬戸 牧子	長崎県医師会常任理事
	滝田 純子	栃木県医師会常任理事
	玉城 研太郎	沖縄県医師会常任理事
	寺本 瑞絵	北海道医師会常任理事
	富山 月子	青森県医師会副会長
	野神 麗子	新潟県医師会理事
	檜山 桂子	広島県医師会常任理事

(委員：五十音順)

目 次

はじめに

1. 調査の概要	1
2. 都道府県別回答者数.....	2
3. 集計結果	3
I. ご自身についてお答えください	3
II. 勤務の状況についてお答えください	6
III. 男女共同参画に関する意識について	10
IV. 制度改革による影響.....	16
V. 家庭での家事分担について.....	17
VI. 育児について	20
VII. 介護について	23
4. その他に記載された回答	26
5. 単純集計表	34
6. 調査票.....	44

おわりに

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

日本医師会男女共同参画委員会では、前回平成 26 年に「男女共同参画についての男性医師の意識調査」を行った。当時はライフイベント等で離職する女性医師が多く、また、女性医師の配偶者の 6 割以上が男性医師である（女性医師の勤務環境の現況に関する調査より）ことから、女性が活躍するためには、上司・同僚・パートナーである男性がどのような意識を持っているかが重要と考え、男性医師を対象に意識調査を行った。

現在、平成 26 年調査時から社会の風潮や医師を取り巻く環境も大きく変化し、仕事を続ける女性医師が増え、委員会の活動も女性医師へのキャリア支援から男女ともに働きやすい医療界の構築へシフトしつつある。そのような中で、男性医師の意識にどのような変化があるかを把握し、必要な支援を検討するため、再度調査を行うこととした。

(2) 調査対象

平成 26 年調査と同様に、全国の臨床研修病院 1,111 施設に各 20 部ずつ（計 22,220 票）を送付し、20 歳台から 60 歳台の幅広い年齢層の男性医師に回答を依頼した（平成 26 年は 1,070 施設へ各 20 部（21,400 票）発送）。

(3) 調査期間

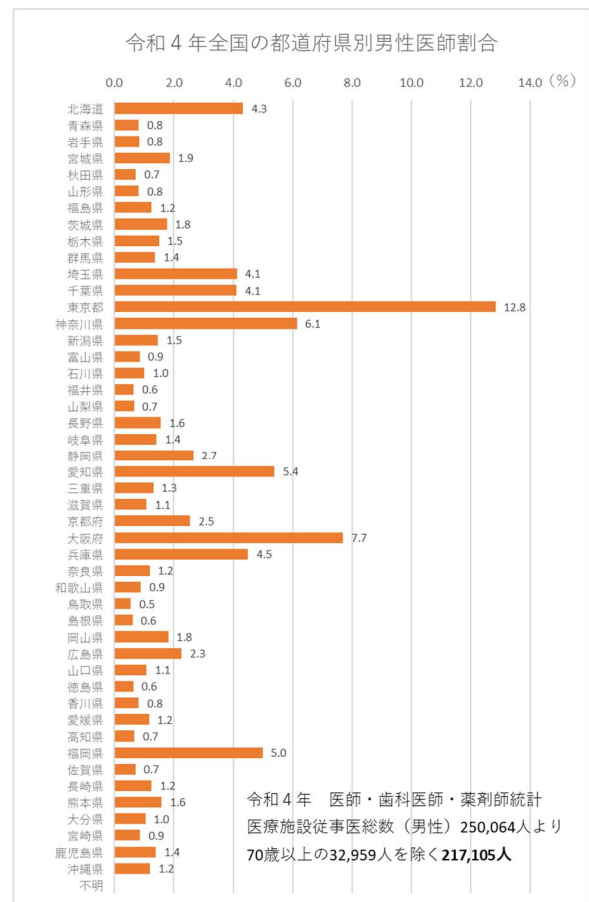
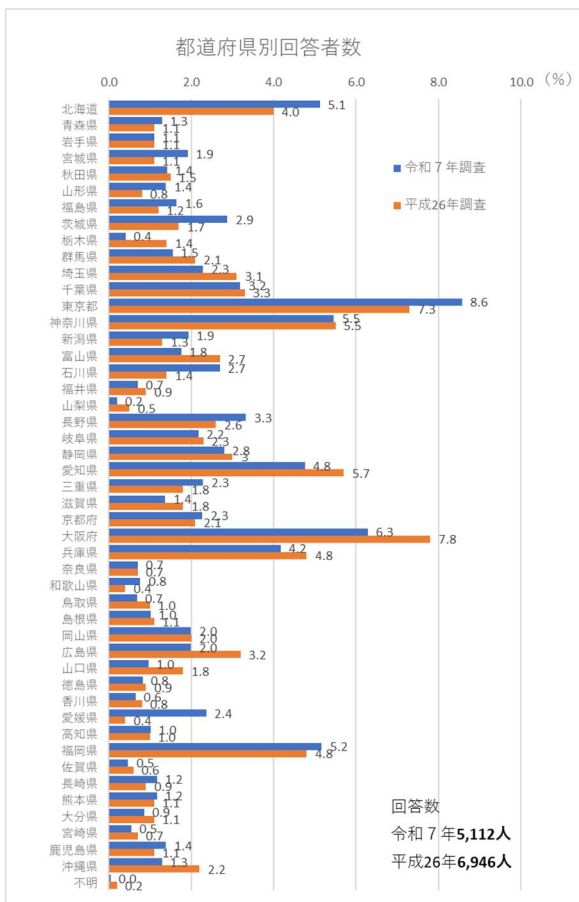
令和 7 年 4 月 4 日に発送し、5 月 16 日を締切とした。

(4) 有効回答数

回収数は 5,121 票、回収率は 23.0%であった（前回回収率は 32.5%）。調査票の発送・集計は中央調査社に外注した。なお、質問ごとに無回答の数が異なるため、有効回答数も質問ごとに異なる。

2. 都道府県別回答者数

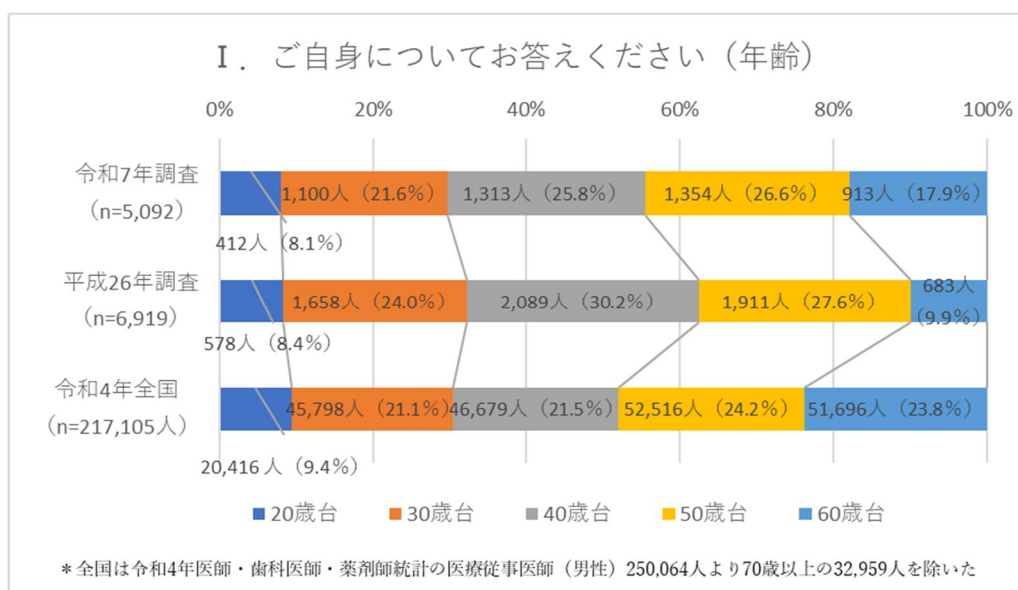
調査の回収数は5,121票であり、平成26年調査に比べ41施設増えたため820部多く調査票を配付したが、回収率は32.5%から9.5ポイント低い23.0%であった。都道府県別に内訳を見ると、著しく回答が増えた愛媛県(0.4%から2.4%)以外は1.0%前後の差である。回答率の傾向は全国の医療施設に務める男性医師数とほぼ同様であった。



3. 集計結果

【1. ご自身についてお答えください】

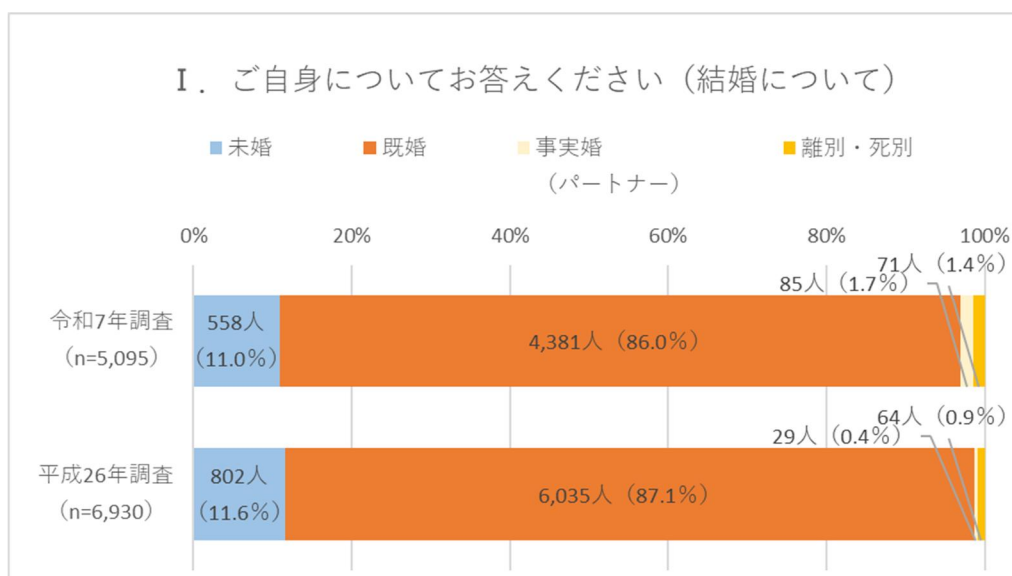
年齢



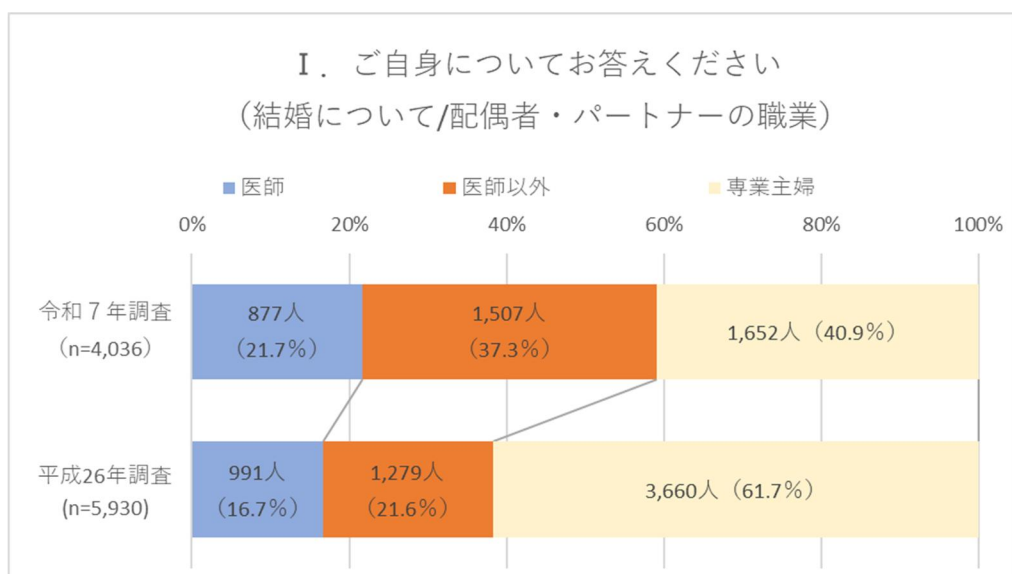
前回同様、20歳台から60歳台と幅広い年齢層に回答を依頼した。平成26年調査に比べ、30歳台以下、50歳台は大きく変わらないが、40歳台は4.4ポイント減少し、60歳台は8.0ポイントと大きく増えた。前回調査時に50歳だった方々の多くが病院で働き続けていることが伺える。

医師・歯科医師・薬剤師統計によると、全国の病院の従事者（男性）は、平成26年153,042人から令和4年166,200人と8.6%増加している（診療所の従事者（男性）は83,308人から83,864人0.7%上昇）。

結婚について



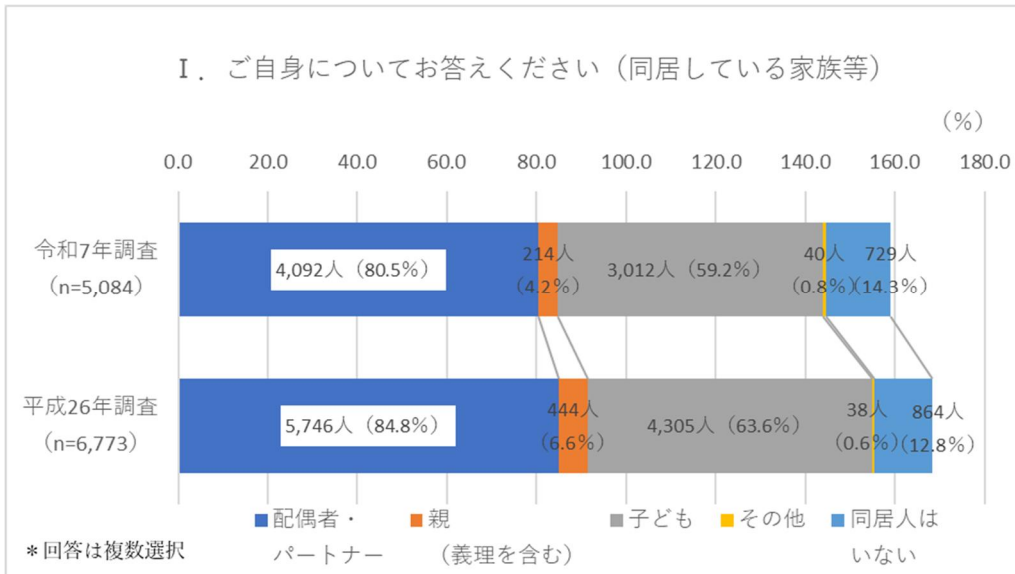
結婚について（配偶者・パートナーの職業）



結婚については、未婚、既婚の割合は平成26年調査と同程度である。事実婚の方が全体の0.4%から1.7%へと1.3ポイント増加した。離婚・死別も平成26年調査に比べて0.5ポイント増えた。

配偶者・パートナーの職業は、医師の割合が若干増えているが、医師以外の方と結婚している方が21.6%から37.3%へと15.7ポイント増加した。一方、専業主婦は61.7%から40.9%へと大きく減少した。

結婚について（同居している家族等）

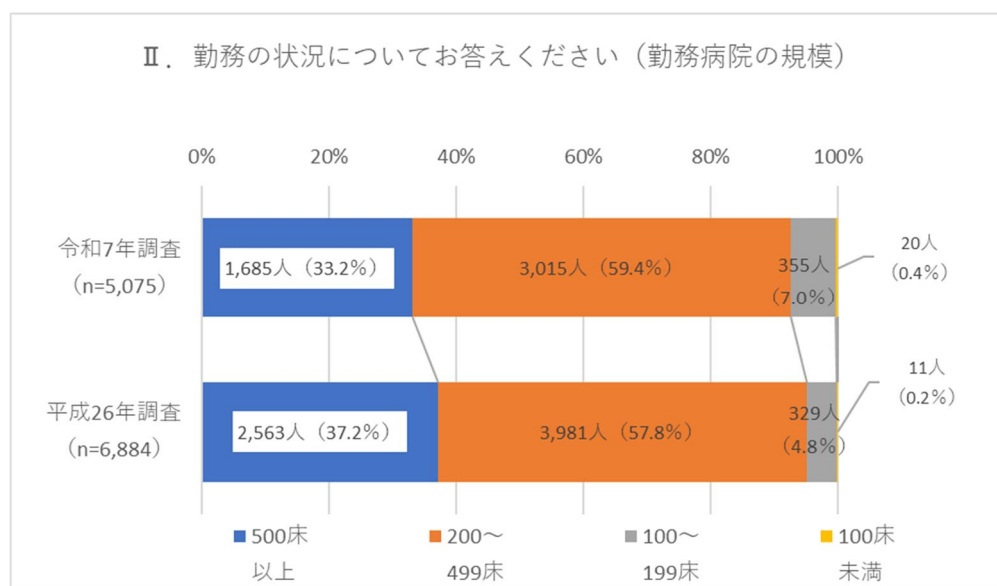


同居の家族は配偶者・パートナーが84.8%から80.5%へ4.3ポイント減少。理由として、前頁の既婚の割合に大きな変化がないことから、仕事を続ける配偶者・パートナーが増える中、どちらかの勤務地によって別居となった方が増えたことが考えられる。

同居の子どもが63.6%から59.2%へ減っているが、回答者に60歳台が増えていることから、既に子どもが独立して家を出た回答者が増えている可能性がある。

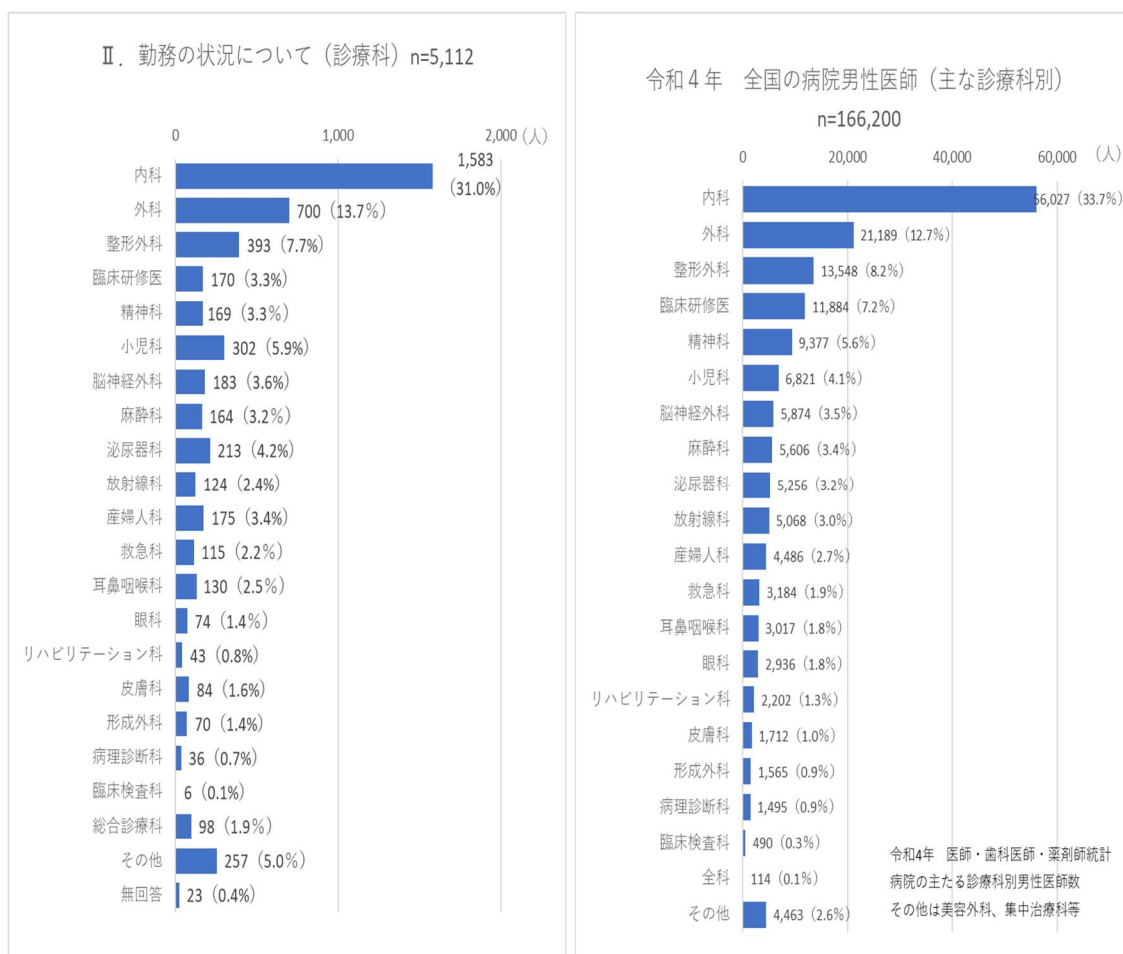
【Ⅱ. 勤務の状況についてお答えください】

勤務病院の規模



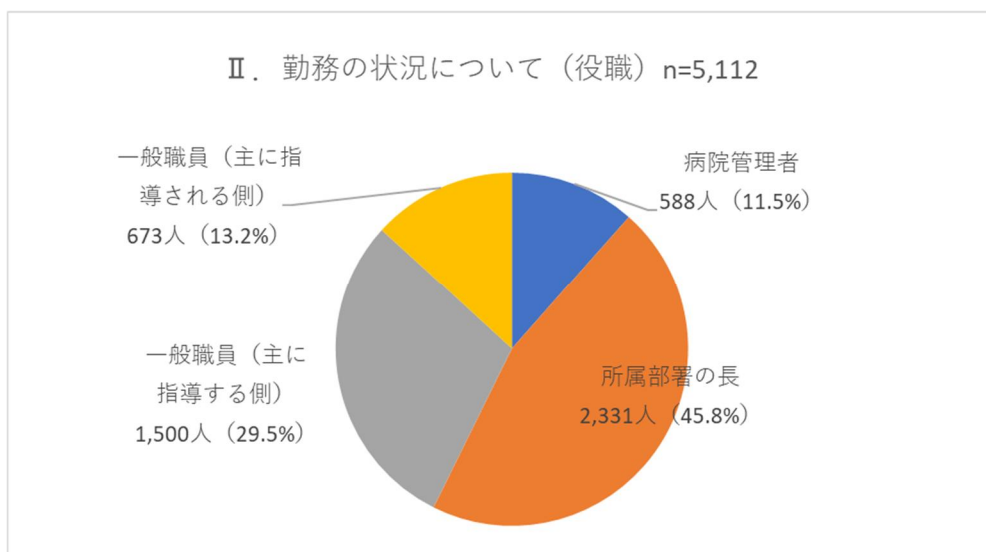
500床以上の大病院に勤務する男性医師が37.2%から33.2%へ4.0ポイント減少し、100~199床の小規模な病院に勤務する男性医師は、4.8%から7.0%へ2.2ポイント上昇した。

診療科



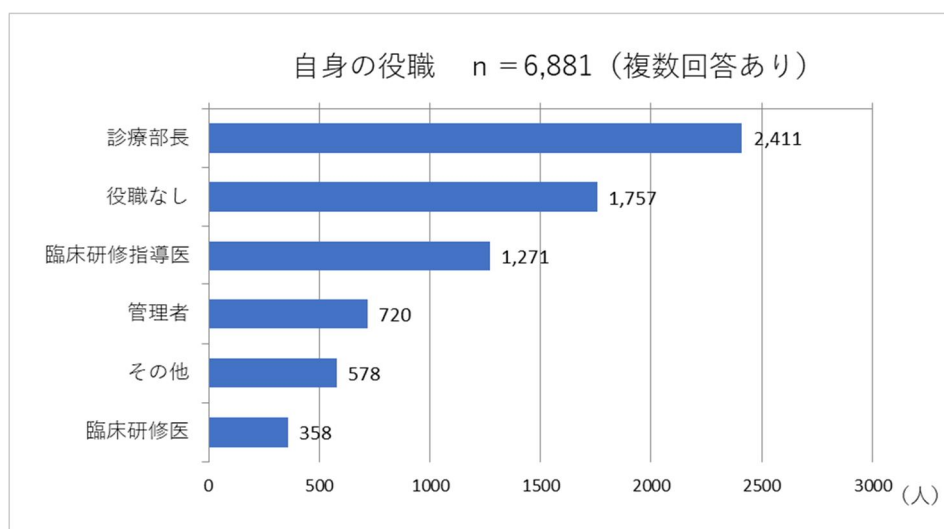
回答者を主な診療科別に見ると、「臨床研修医」は全国 7.2% に対し 3.3%、「精神科」は全国 5.6% に対し 3.3% であり、今回調査での回答が少なかった。「小児」「産婦人科」「耳鼻咽喉科」「形成外科」等は多く回答を得た。

役職

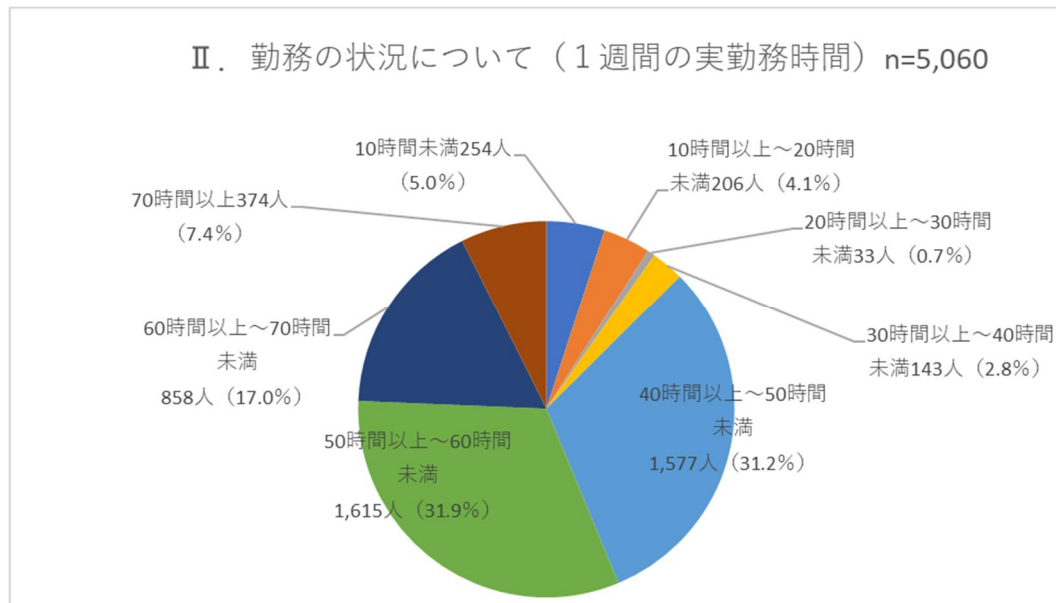


回答者を役職別に見ると、最も多いのは「所属部署の長」で45.8%である。次に「一般職員（主に指導する側）（29.5%）」、「一般職員（主に指導される側）（13.2%）」、「病院管理者（11.5%）」となっている。

（参考）平成26年調査：自身の役職



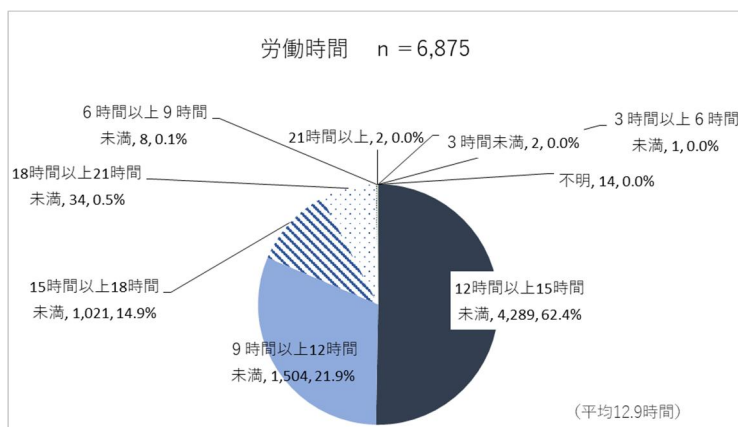
1 週間の実勤務時間



1 週間の実勤務時間は、自身が医師として働いていると感じている時間を回答いただいた。最も多いのは「50 時間以上 60 時間未満 (31.9%)」であり、週 5 日勤務とすると 1 日の労働時間は 10 時間から 12 時間となり若干長い。次に多いのは「40 時間から 50 時間 (31.2%)」のであり、1 日 8 時間から 10 時間となる。「60 時間以上 70 時間」と 1 日に 12 時間から 14 時間の労働をしている医師も 17.0%、「70 時間以上」の医師も 7.4%見られる。

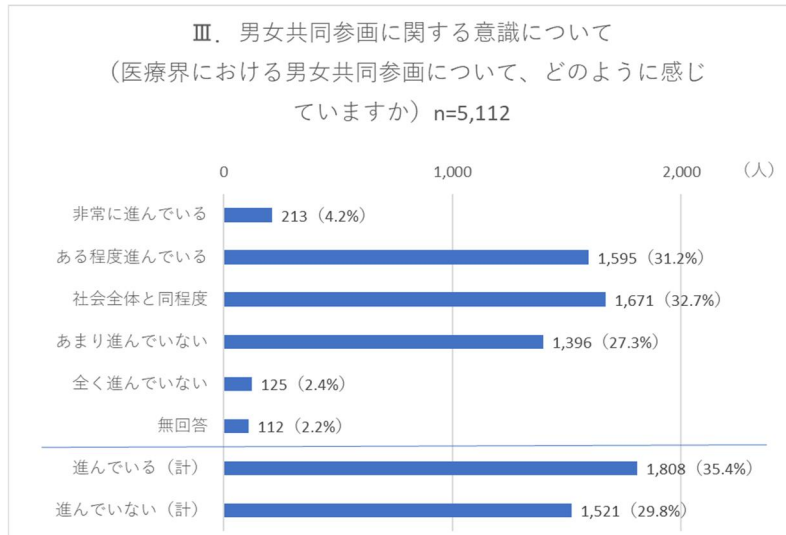
1 週間に 70 時間の労働は、1 日 8 時間労働を基本とすると毎日 6 時間の残業となり、過労死のリスクが高まる可能性がある。

(参考) 平成 26 年調査 家を出てから帰宅するまでの時間



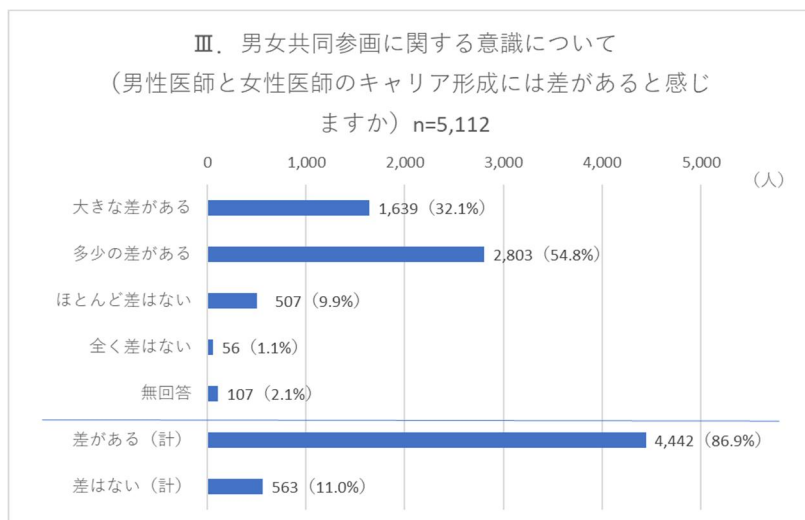
【Ⅲ. 男女共同参画に関する意識について】

医療界における男女共同参画について、どのように感じていますか



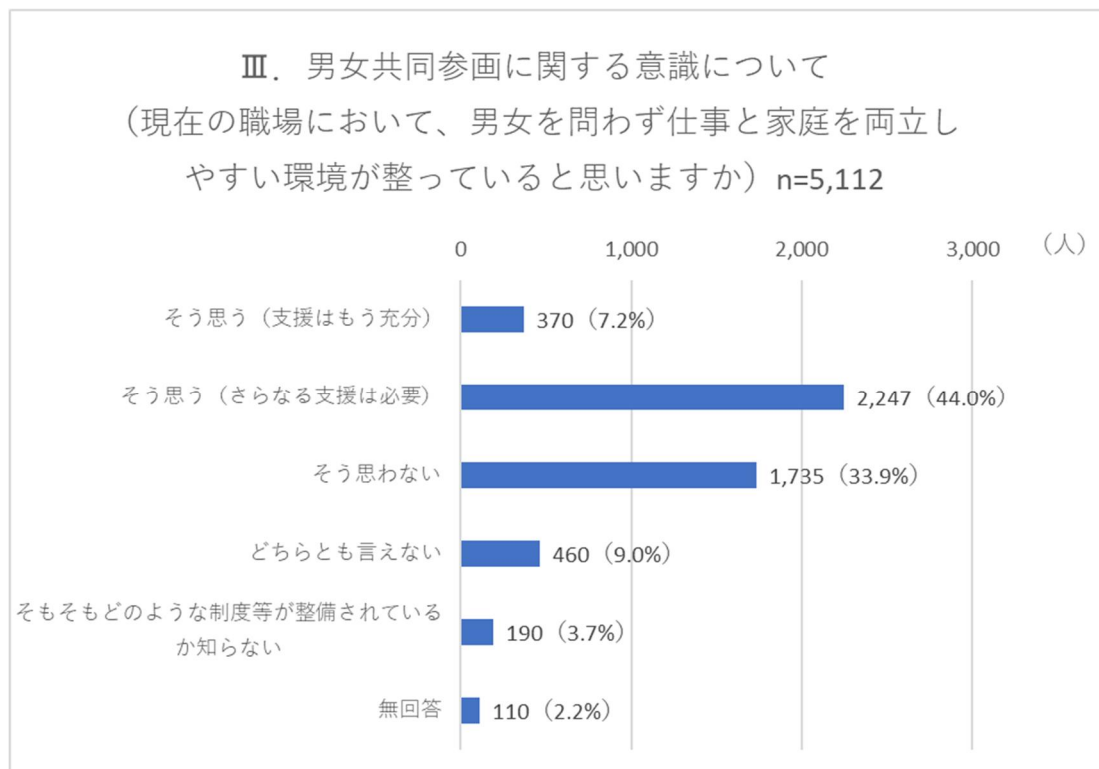
「非常に進んでいる」と回答した男性医師は4.2%と少ないが、「ある程度進んでいる」と回答した31.2%と合わせて35.4%となり、ネガティブな回答である「あまり進んでいない」「全く進んでいない」を合わせた29.8%を上回る。

男性医師と女性医師のキャリア形成には差があると感じますか



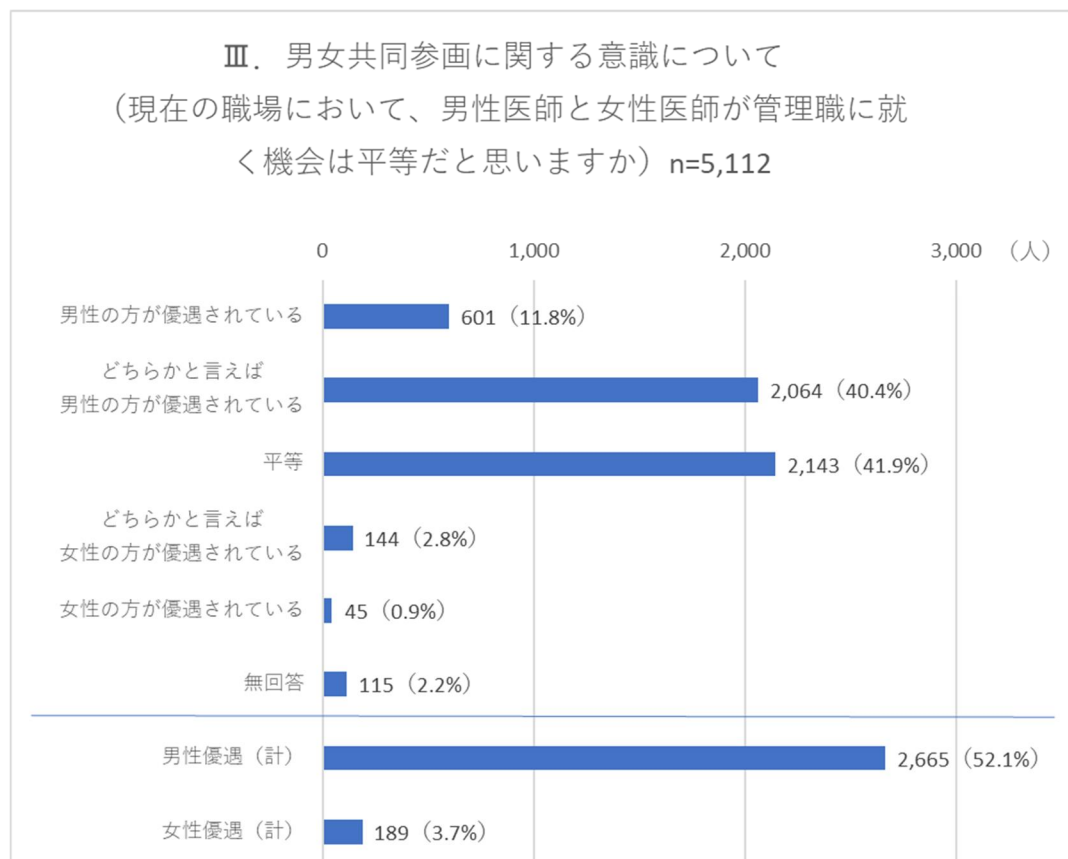
「大きな差がある (32.1%)」と「多少の差がある」を合わせると86.9%となり、ほとんど差がない、全く差がないと感じている11.0%を大きく上回っている。

現在の職場において、男女を問わず仕事と家庭を両立しやすい環境が整っていると思いますか



さらに支援は必要だが、整っていると感じている男性医師が全体の 44.0% であり、「そう思う」を合わせると 51.2% と半数以上の男性医師が仕事と家庭を両立する環境が整っていると感じている。

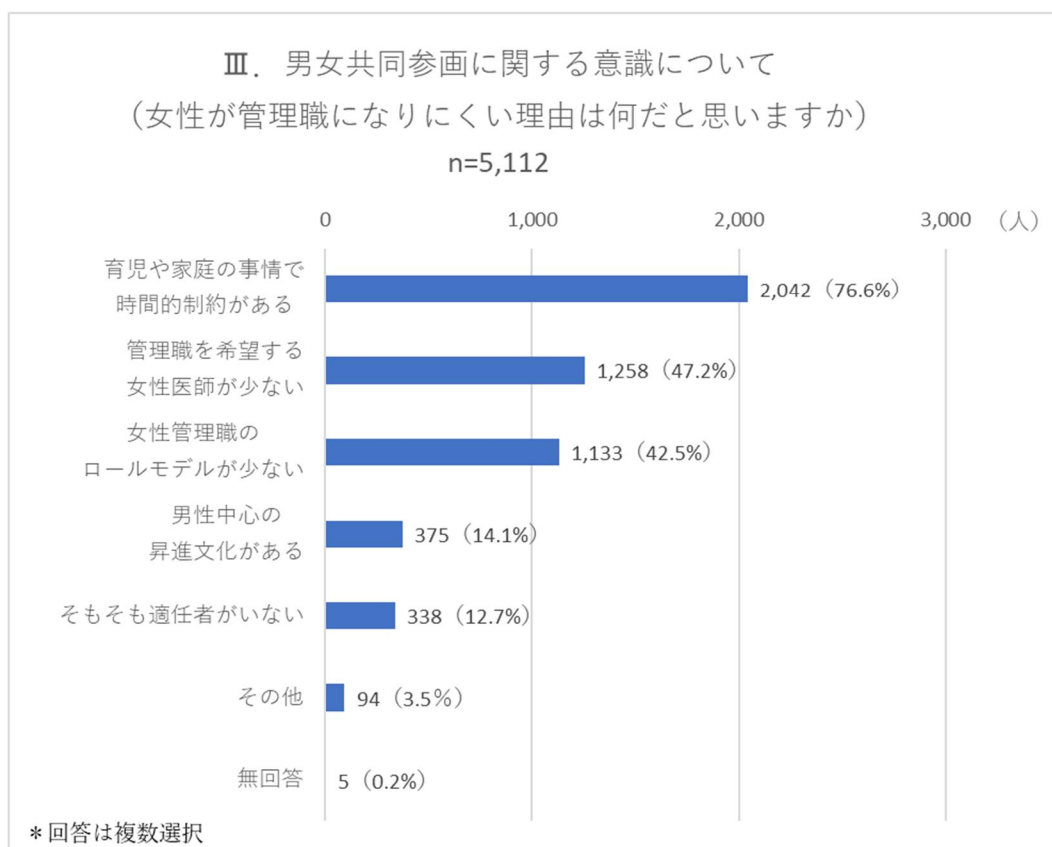
現在の職場において、男性医師と女性医師が管理職に就く機会は平等だと思いますか



「平等」であると回答した男性医師が 41.9%と最も多い一方で、「男性の方が優遇されている」「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」を合わせると 52.1%と半数以上になる。

数で見ると平等、もしくは男性優位と感じている男性医師が多いが、自由記載欄には休みをとる女性医師のカバーをしているのは男性である、女性ばかり優遇されているといった意見が多数見られた。

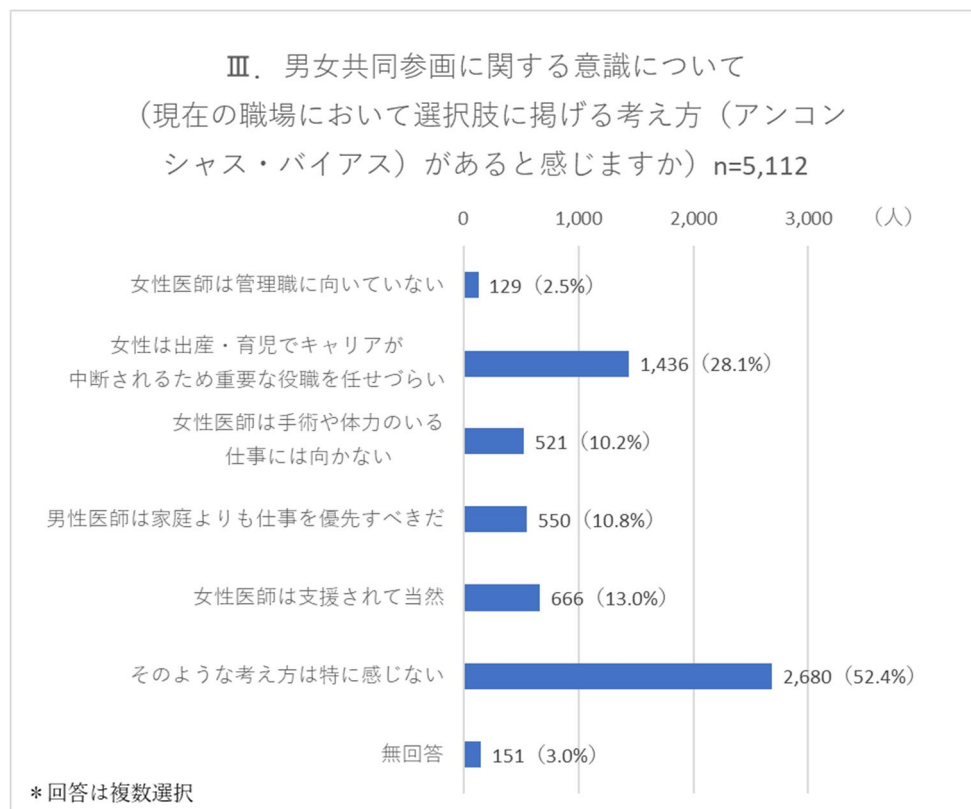
前問で「男性の方が優遇されている」または「どちらかと言えば男性の方が優遇されている」を選択した方にお伺いします。女性が管理職になりにくい理由は何だと思えますか



前問で男性優位と回答した医師に女性が管理職になりにくい理由を聞いた。最も多いのは「育児や家庭の事情で制限がある (76.6%)」であり、「管理職を希望する女性医師が少ない (47.2%)」「女性管理職のロールモデルが少ない (47.2%)」と続く。

26頁にまとめたが、その他の自由記載欄には、「女性医師の数が少なく科によるばらつきも大きい」「女性医師のキャリアへの意欲不足」「女性を育ててこなかった」等の回答が並んだ。

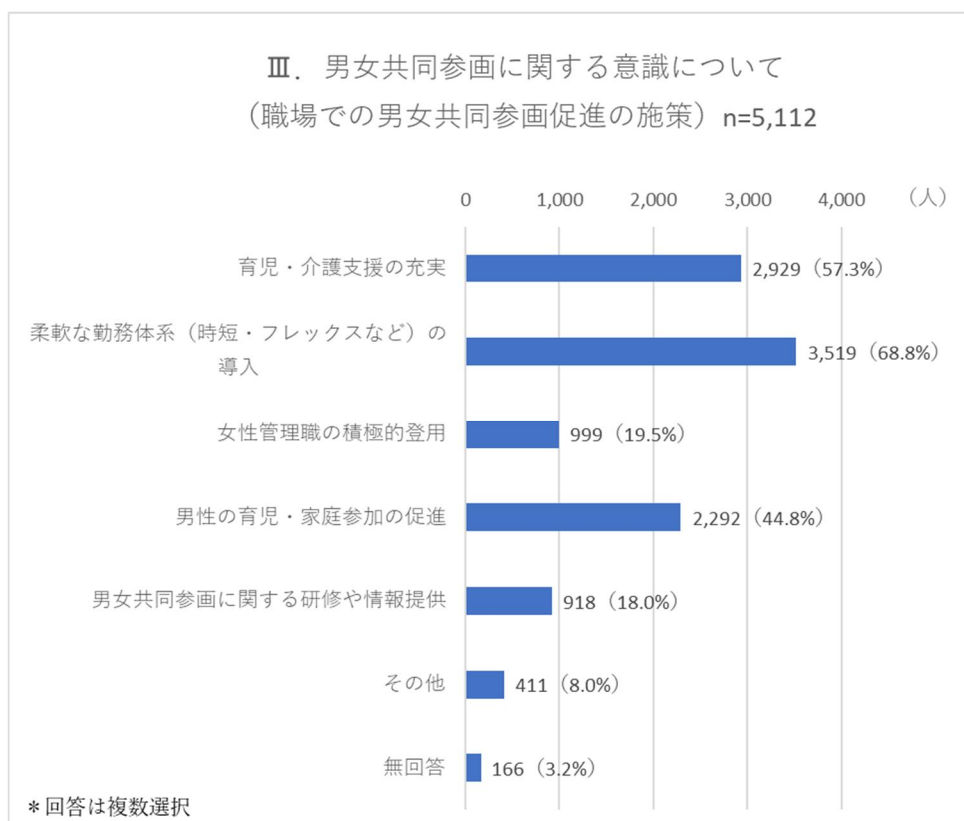
現在の職場において、選択肢に挙げる考え方（アンコンシャス・バイアス）があると感じますか



「そのような考え方は特に感じない」が最も多く 52.4%と半数以上であったが、「ライフイベントでキャリアを中断するため重要な役職を任せづらい」という回答は3割近い。自由記載にも、女性医師が休む分、しわ寄せがくるという意見が多数あった。重要な役を担っている医師が休暇に入っても、現場が混乱しないような対策がないと、女性に重要な役職が任せられない状況は変わらないと考える。

「手術や体力のいる仕事に向かない」「男性医師は家庭よりも仕事を優先すべきだ」「女性医師は支援されて当然だ」といった、性別による差別意識も、それぞれ1割以上の回答がある。

男女共同参画をさらに促進するために、職場でどのような施策が必要だと思いますか



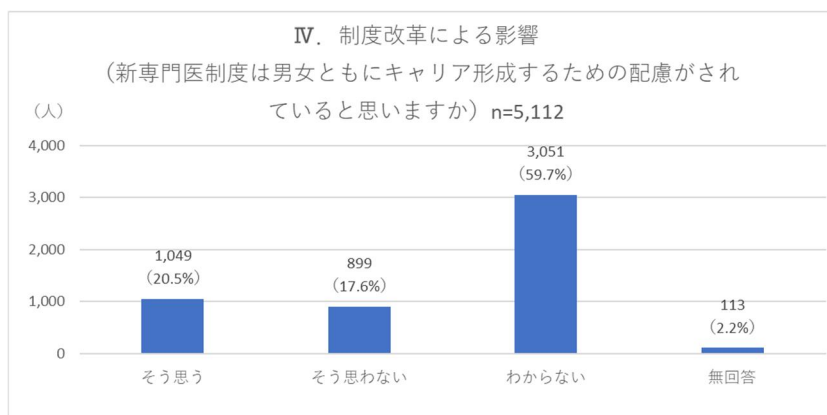
最も多いのは「柔軟な勤務体系の導入 (68.8%)」であり、多様性に対応し、小さい労働力を拾っていくためには引き続き必要な支援だと考える。

一方で、「その他」に記入された回答や自由記載を見ると、「働き方改革で柔軟な勤務体系が導入しにくい」「育児休暇や時短を取得する人の仕事を代わる医師へ配慮が必要だ」と言った回答も見られた。

11 頁で仕事と家庭を両立する環境が整っているという回答は半数を超えていたが、「育児・介護支援の充実」は 57.3%、「男性の育児・家庭参加の促進」は 44.8%の男性医師が回答している。

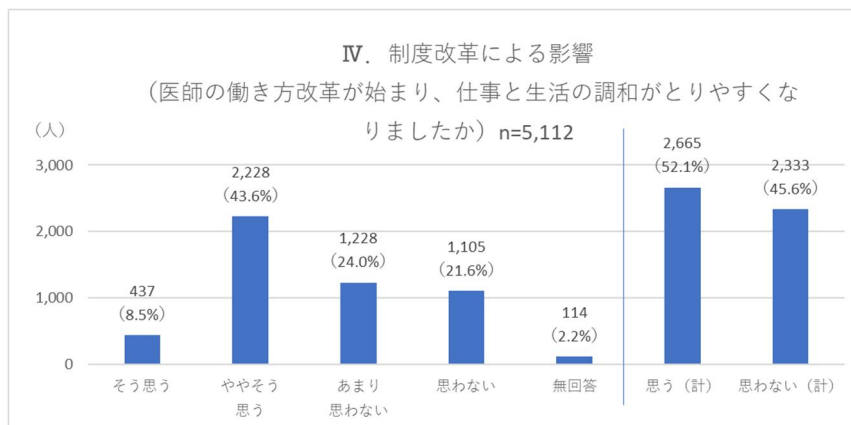
【IV. 制度改革による影響】

新専門医制度は男女ともにキャリア形成するための配慮がされていると思いますか



「そう思う (20.5%)」に対し、「そう思わない (17.6%)」は下回ったが、自由記載 (28 頁) では、「ライフイベントへの配慮がされていない」「診療以外の負担が多大である」という意見が目立った。

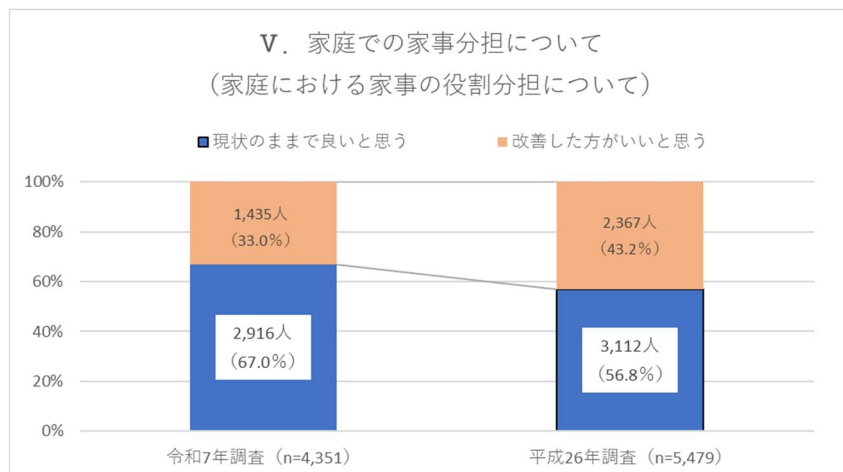
医師の働き方改革が始まり、仕事と生活の調和がとりやすくなりましたか



医師の働き方改革についても、「そう思う」「ややそう思う」を合わせると52.1%と半数を超えるが、「思わない」と回答した男性医師から1,800件を超える自由記載があった。「変化を感じない」が最も多く、「忙しくなった」「自由度が減り働きにくくなった」「仕事量は同じで労働時間だけ短くするため、サービス残業が増えた」といった意見が寄せられた。

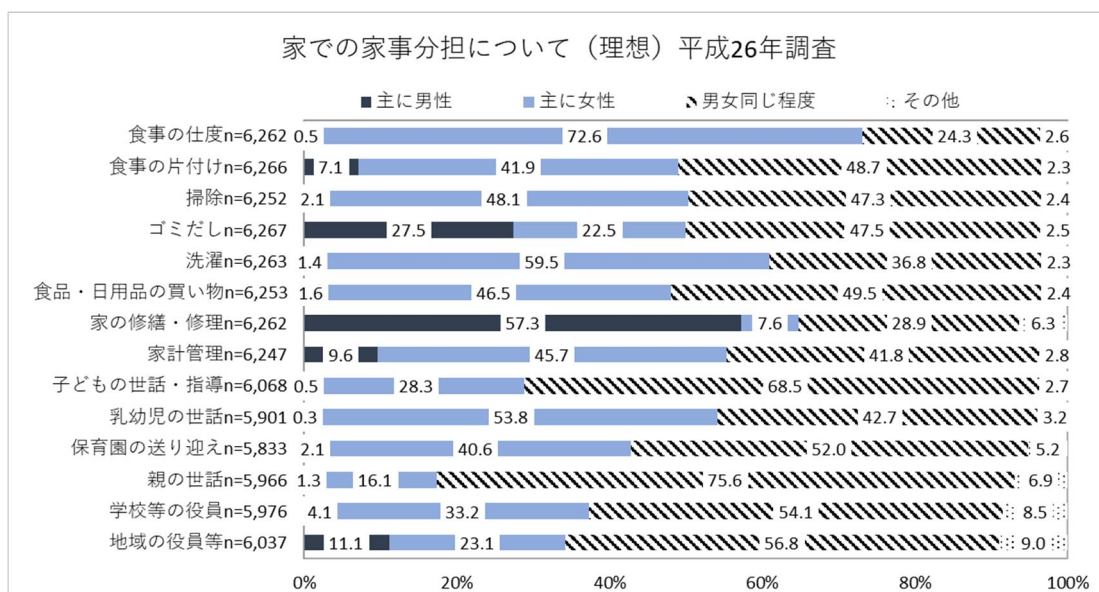
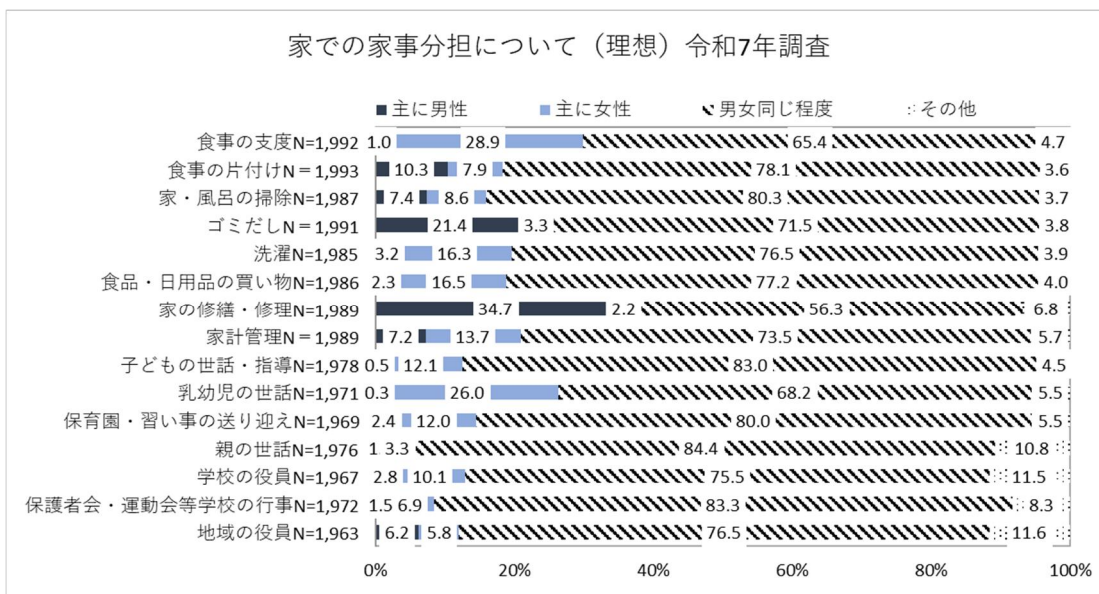
【V. 家庭での家事分担について】

(同居の家族等がいる方にお伺いします) 家庭における家事の役割分担について



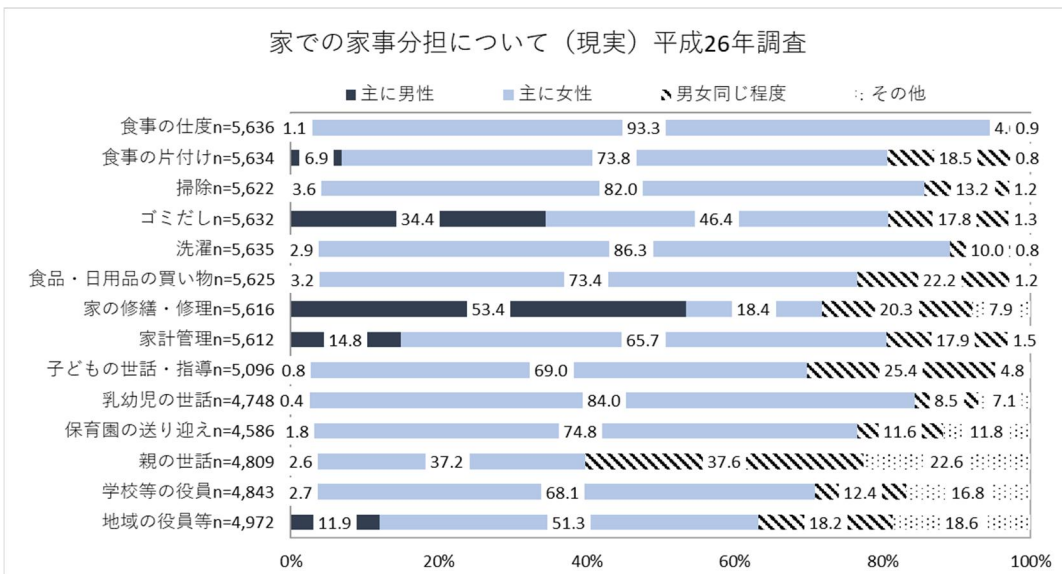
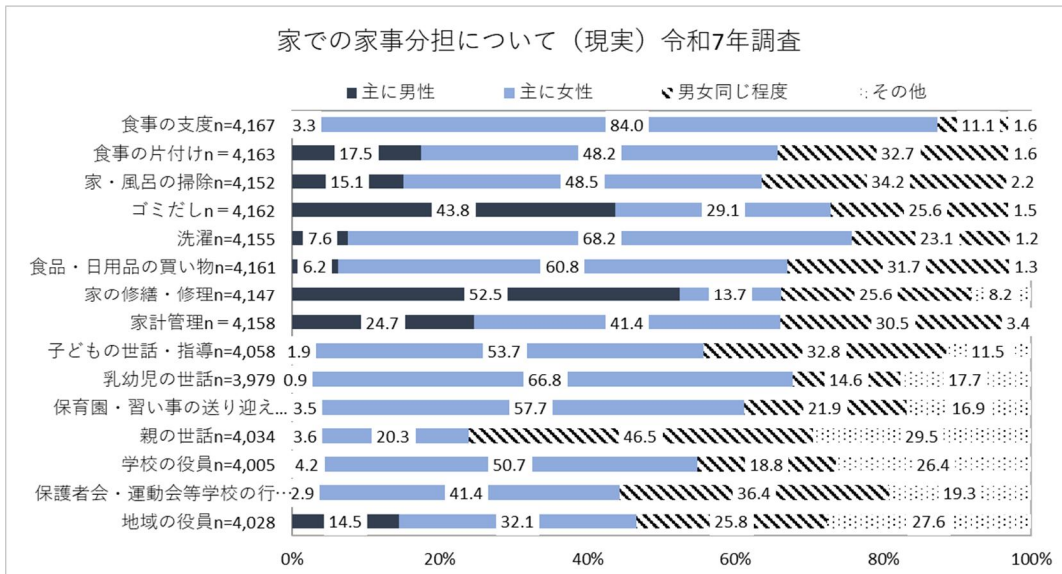
家庭における家事の役割分担については、平成 26 年調査と比べ、「現状のままで良いと思う」が 10.2 ポイント上昇した。

家事分担について、理想と現実をお答えください（前問で現状のまま
で良いと思うと答えた方は現実のみ、同居人がいない方は理想のみ
をお答えください）



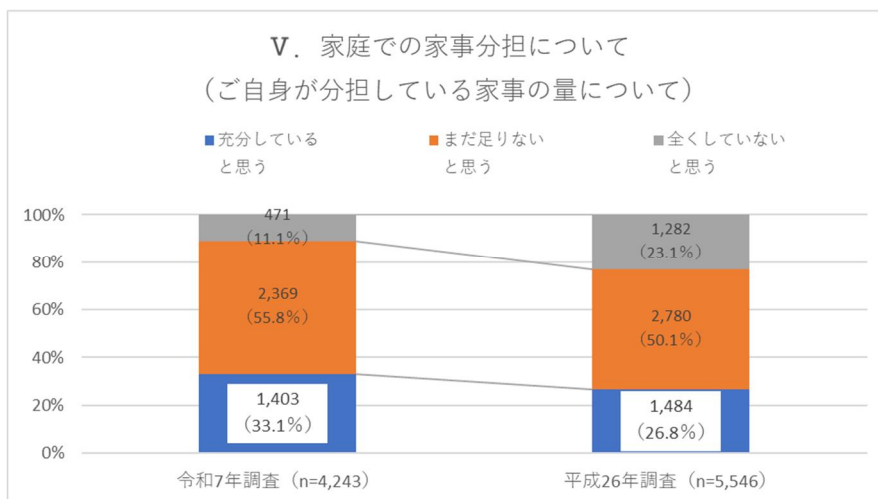
平成 26 年調査の設問に、「保護者会・運動会等学校の行事」を新たに足して質問した。

平成 26 年調査では、「食事の支度」は 72.6%が主に女性がすべきと回答していたが、28.9%となり 43.7 ポイント減少した。「洗濯」も 43.2 ポイント下がった。他に、「食事の片付け」「掃除」「ゴミ出し」「乳幼児の世話」「送り迎え」等も女性がすべきという回答は減り、男女同程度が望ましいという回答が増えている。



「現実」を見ると、平成26年調査と比べ「理想」のような大きな変化はなく、「食事の支度」「洗濯」「食品・日用品の買い物」等、依然として女性が多く担っている家事が多いが、「食事の片付け」「掃除」「家計管理」等では、男性の家事参加も増加傾向である。

(同居の家族等がいる方にお伺いします) ご自身が分担している家事の量について

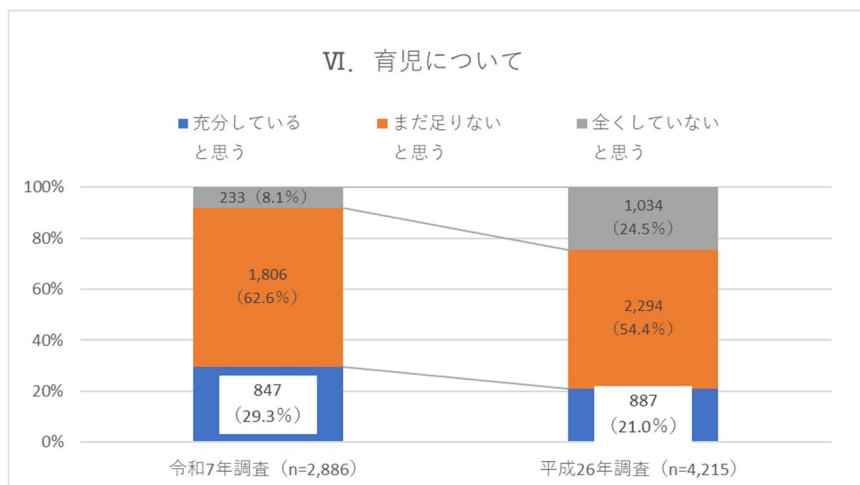


前々問は役割分担の在り方に対する質問だが、この設問では自身の家事の分量をどう感じているかを聞いた。

「充分している」と感じている男性医師が増え、「全くしていない」と感じている男性医師は減ったが、「まだ足りないと思う」が増えている。

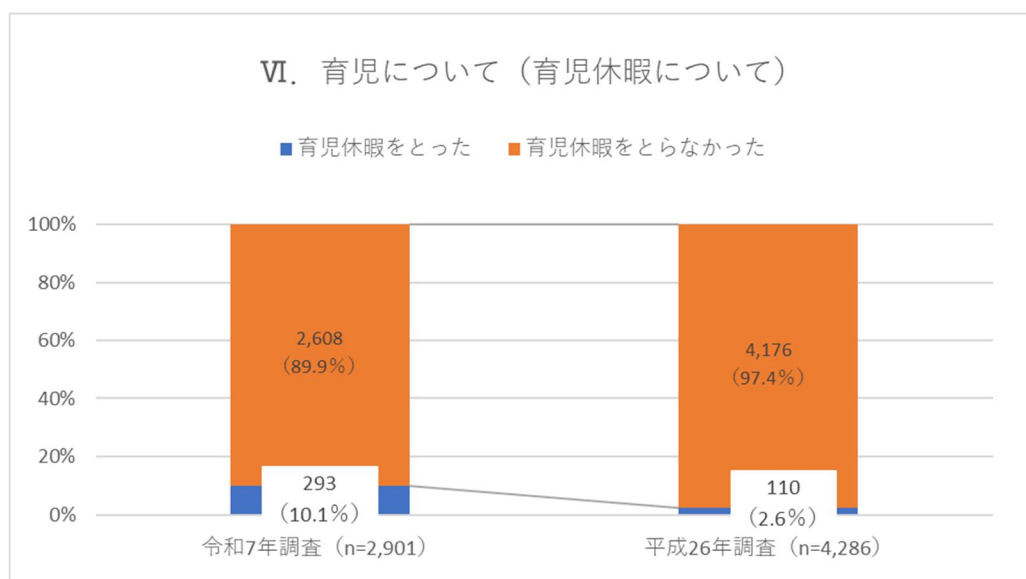
【VI. 育児について (同居のお子さんがある方)】

育児について



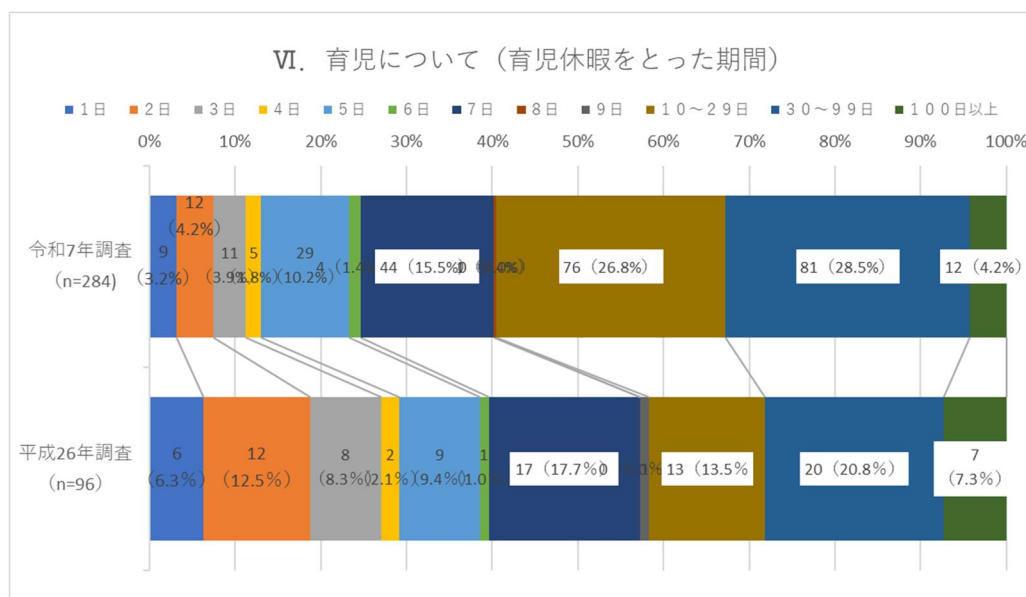
育児については、前問の家事の量と同じ傾向を示し、「充分していると思う」が増え、「全くしていないと思う」が減り、「まだ足りないと思う」が増加した。

育児休暇について



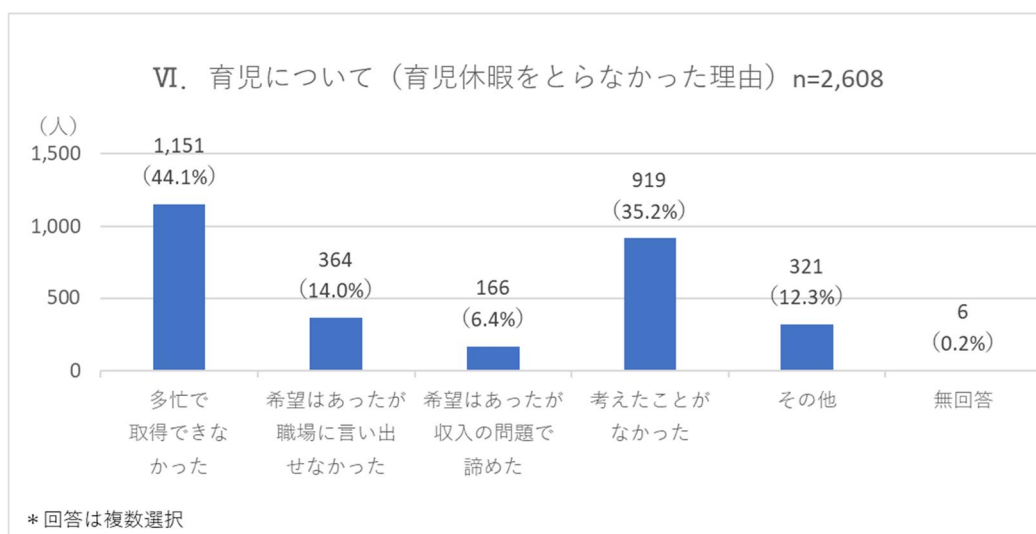
育児休暇をとった男性医師は、平成26年調査の2.6%から10.1%へと7.5ポイント上昇した。

育児休暇をとった期間



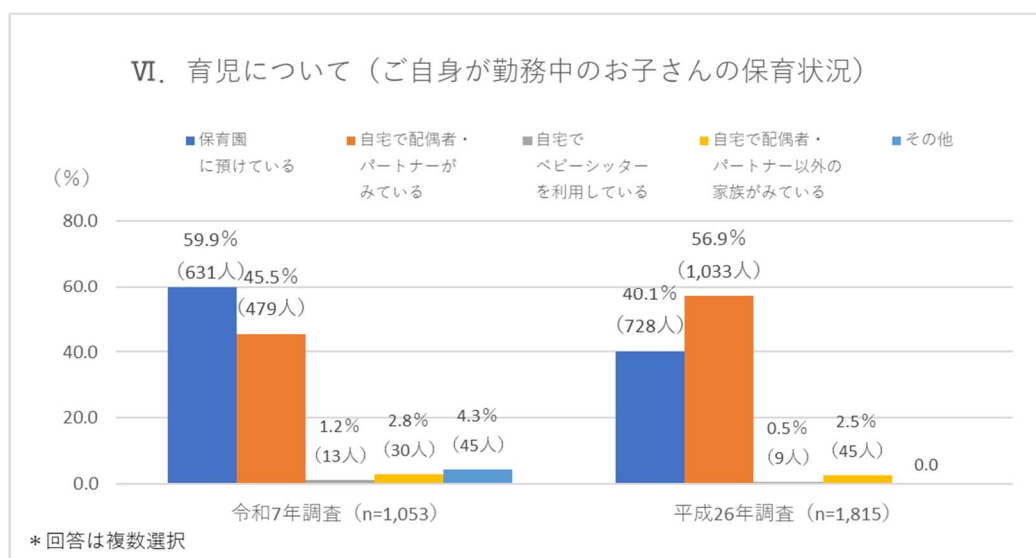
育児休暇の期間も「10日～29日」「30日～99日」とより長い期間取得した男性医師が増加している。

(前問で「育児休暇をとらなかった」を選択した方にお伺いします)
 育児休暇をとらなかった理由は何ですか



最も多い理由は「多忙で取得できなかった (44.1%)」である。平成 26 年調査では質問の仕方が異なるので比較できないが、次に多い「考えたことがなかった (35.2%)」は、平成 26 年調査では 8 割を超える大多数の意見を占めていた。

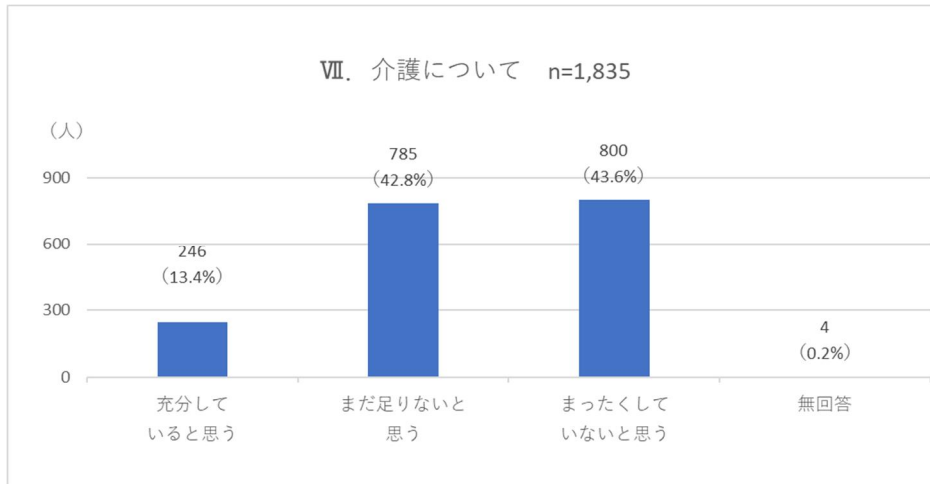
(同居に未就学児がいる方にお伺いします) ご自身が勤務中のお子さんの保育状況



「保育園に預けている (59.9%)」が最も多く、平成 26 年調査で最も多かった「自宅で配偶者・パートナーがみている」と逆転した。

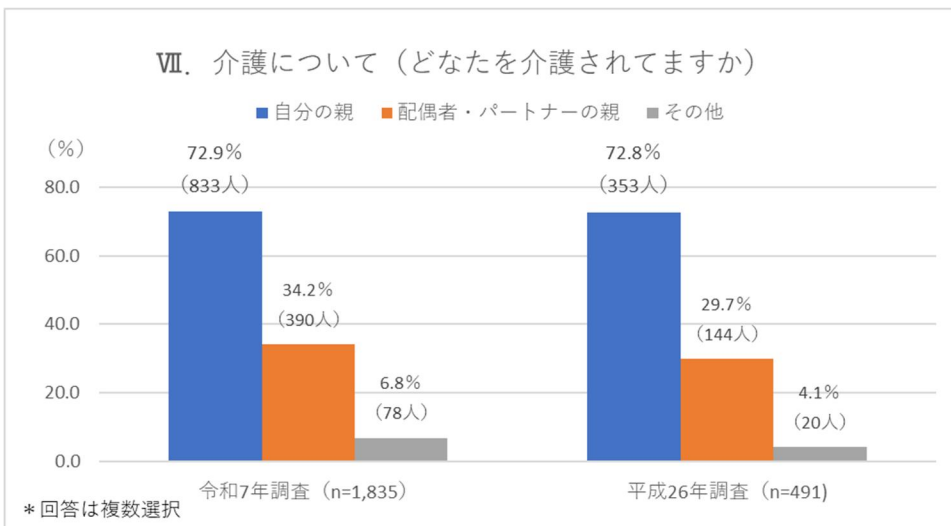
【VII. 介護について（介護をしている方・同居別居は問いません）】

介護について



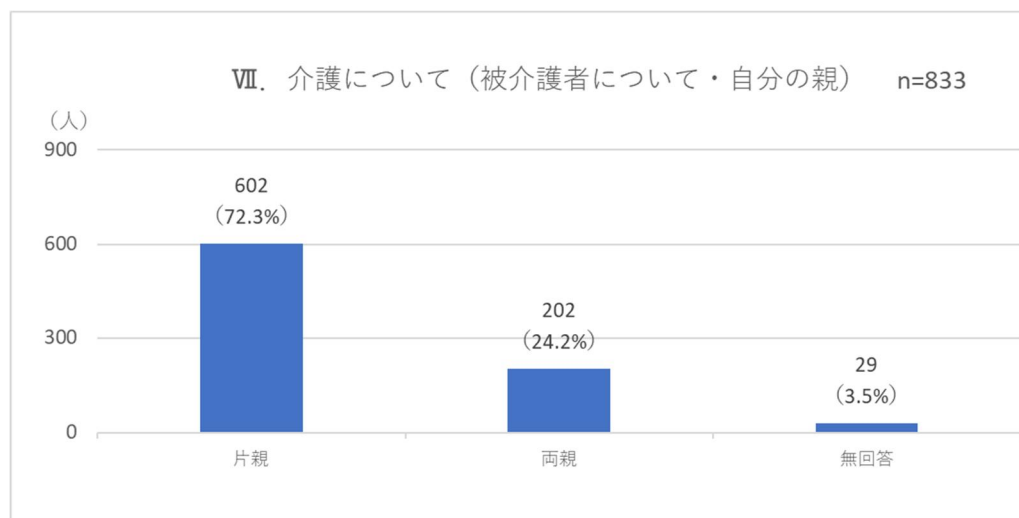
該当する 1,835 人のうち、13.4%が「充分している」と回答した。「まだ足りないと思う (42.8%)」「まったくしてないと思う (43.6%)」が拮抗している。

どなたを介護されていますか



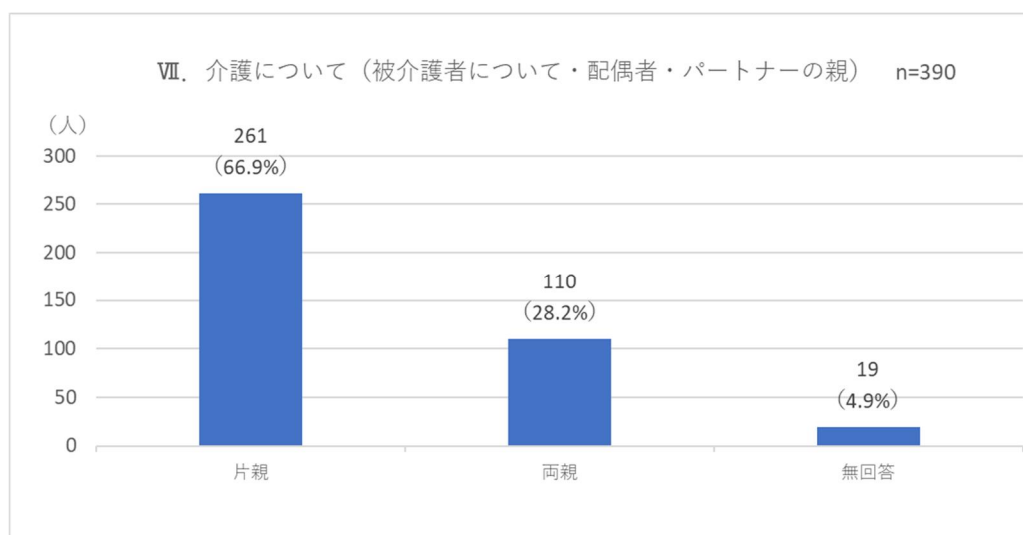
該当者が 1,835 人であり、回収率が今回より高かった平成 26 年度の 491 人に比べ、介護をしている医師は大きく増えている。被介護者については「自分の親 (72.9%)」、「配偶者・パートナーの親 (34.2%)」、「その他 (6.8%)」であり、「配偶者・パートナーの親」を介護している医師が 4.5 ポイント増えた。その他は祖父母や兄弟等の親族、子ども等である (32 頁)。

被介護者について（自分の親）



自分の親を介護している男性医師833人のうち、7割以上が片親の介護だが、2割以上の男性医師が両親の介護をしている。

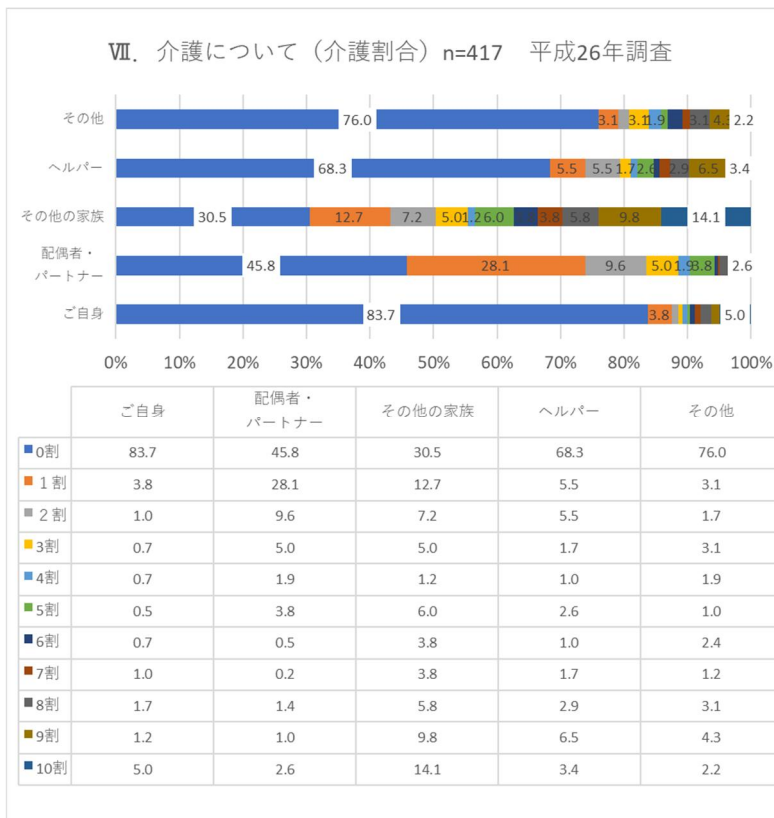
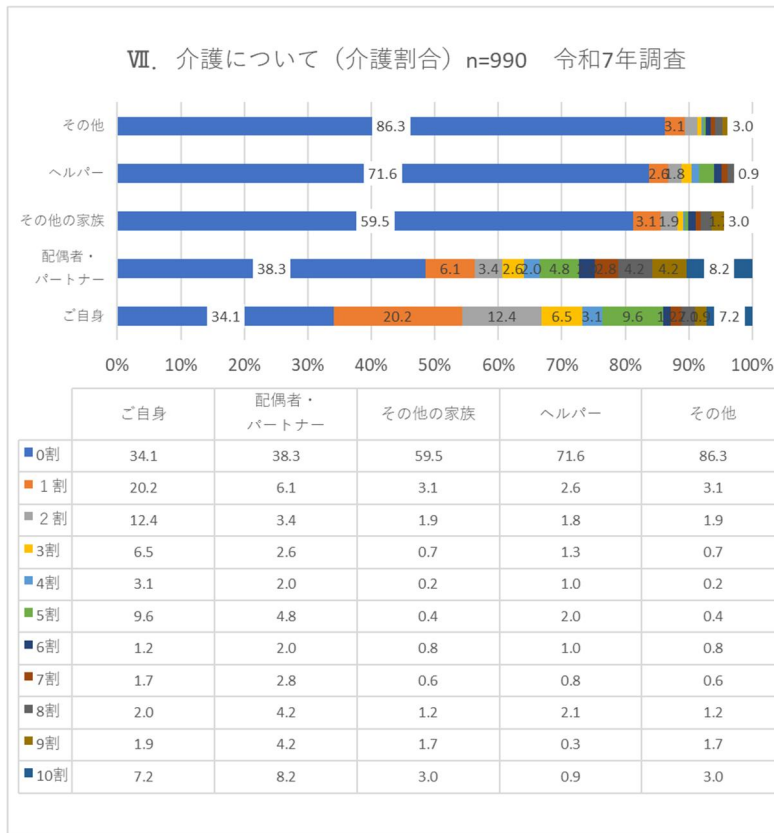
介護について（配偶者・パートナーの親）



配偶者・パートナーの介護をしている男性医師390人のうち、7割弱が片親の介護を、28.2%が両親の介護をしている。

介護の質問該当者1,835人は回答者全体の35.8%である。介護は家族が対応しなければならないことも多く、3割以上が介護をしているのは、職場でも対策が必要な状況であると思われる。

主にどなたが介護をしていますか



主に誰が介護しているかと、それぞれが担う介護の割合も回答いただいた。

平成 26 年調査で自身は 0 割と回答していた男性医師が 83.7%いたが、今回調査では 34.1%へと大幅に減り、自身で 10 割の介護をしている医師は 5.0%から 7.2%へ増えた。

一方で、10 割介護をしている配偶者・パートナーも 2.6%から 8.2%へと増加している。

4. その他に記載された回答

【Ⅲ. 男女共同参画に関する意識について】

女性医師が管理職になりにくい理由は何だと思えますか（その他の自由記載欄に記入された回答）

・女性医師数の問題（33 件）

常勤の女性が少ない・女性が少なく科ごとのばらつきも大きい・管理職になる年齢の女性医師が少ない

・ライフイベントや家庭のことによる勤務への影響（26 件）

妊娠や出産でキャリア形成しにくい・情報収集や分析に費やす時間が家事のために制約を受ける・専門医制度が女性に不利・オンコール対応ができない・長時間働けることが昇進の鍵・家族の理解を得にくい・家族と生活することが前提となっていない勤務体系

・女性医師のキャリアへの意欲不足（11 件）

希望する女性がいらない・女性自身の意志で子育て後に開業したり中小病院への転職する・女性であることを理由に管理職から逃げている・大学院に進学する割合が低い

・性別役割分担・差別意識（9 件）

男性には代替不能な性的役割がある・部下の信頼を得にくい・男性が家のことをする意識が希薄・女性が昇進することを望まない男性医師がいる・後継として女性を育てていない

・平等である（3 件）

平等に評価すると男性の方が仕事量、業績が多い・やる気があり能力があれば平等

・その他（10 件）

管理職は収入が減る・管理職になりたくてなった人は多くない・管理職への登用方法が公平ではない

男女共同参画をさらに促進するために、職場でどのような施策が必要だと思いますか（その他の自由記載欄に記入された回答）

・**人員（115件）**

女性が増える分増員が必要・人を増やさないと何も解決しない・柔軟な勤務体系を可能とする医師数の確保・フルタイムで働く女性医師の雇用

・**勤務環境・業務内容・制度の整備（79件）**

業務効率化・業務量の削減・時間外のカンファレンスや会議の禁止・当直/オンコールをなくす・チーム制の推進・賃上げ・奨学金義務年限の見直し・管理責任の分散・タスクシフト・情報共有

・**産休・育休等を取得する人の仕事を代わる人への配慮（59件）**

休暇をとる人の仕事を代わる人への手当・負荷が増える男性医師への支援・強制的に育休をとらせる・男性への施策

・**必要ない・わからない（46件）**

適材適所ですればいい・余計な動きをするほど働きづらくなる・それぞれの家庭の問題・無意味

・**平等な勤務・評価（21件）**

当直・派遣での男女平等・子の就学後、時間外勤務の平等化・JOB型・間違った男女共同参画の修正・不当な待遇を受けていると感じている当事者の意見聴取

・**教育・意識改革（13件）**

小/中学生からの教育・組織マネジメントに関する教育・管理職の意識改革・柔軟な勤務体系の活用について管理部門への情報提供

・**社会の理解（11件）**

患者の意識改革・チーム医療への患者の理解・労働に対する価値観の矯正

・**子育て支援（13件）**

男性医師の育休取得促進・病児保育の充実・配偶者が医師以外でも病院の保育園を利用できるようにしてほしい・子育てに対する社会的支援

・**支援（11件）**

休職時への大学医局からの支援・不妊治療への支援・女性への給与面での優遇・シッター利用に対する支援・組織に対する支援・産休/育休後のポジションの保証・復職に向けた段階的な支援

・**女性の意識向上（9件）**

女性医師の熱意アップ促進・子育て中の女性医師は配慮されて当然という風潮の是正・女性が経験/技術向上するための機会を増やす・当直やきつい仕事は嫌だという意識の改革

・その他 (27 件)

このような議論自体が問題・男女問わず管理職に就きたい人が減っている・男女は体のつくりが違うので仕方がない・女性医師数の制限・男性が協力すると負担が増える・女性が人事権を持つ・家族サポート・経営改善・日直や当直をしない人の給料は下げる・すでに達成している

【IV. 制度改革による影響】

新専門医制度は男女ともにキャリア形成するための配慮がなされていると思いますか（そう思わないを選択した方の理由の回答）

・生活との調和・ライフイベントへの配慮 (180 件)

カリキュラム制が一部のみ・プログラム制が多い・いつでもキャリア復帰できるようにしてほしい・家庭の事情で必須項目が満たしにくい・結婚していると病院移動等で妻に無理がかかる・育児のため専門医維持が困難・中断の手続きが煩雑・中断後再開するのが大変・女性に不利・制度自体に女性登用のメッセージを感じない

・負担が大きい、無駄が多い、煩雑 (178 件)

J-OSLER の負担が大きすぎる・必要症例数が多すぎる・病院によって症例の集めやすさが異なる・時間外労働を強いられる・サービス残業が増える・レポート課題が多すぎる・無駄な作業が多い・システムが煩雑すぎる・わかりにくい

・変わらない・配慮は感じない (82 件)

根本的な研修方法に変化がない・配慮は何も感じない・実感がない

・キャリアパスとして (43 件)

キャリア変更しにくい・学生の延長のようなカリキュラム・インセンティブがない・取得しても給料は変わらない・キャリア形成のための制度ではない・キャリア形成とは無関係・領域により要件の差が大きい・浅く広くなり負担が増えた・締め付けばかりでメリットがない

・時間の問題 (36 件)

時間がかかる・期間の優遇措置がない・勤務時間の制限がある・常勤の要件があり時間拘束がネック、研修が長すぎて専門医取得前に出産育児で現場を離れる

・勤務地の問題 (35 件)

シーリングにより異動が多く病歴要約の負担も大きい・シーリングで勤務病院が限定される・週3同一施設の条件が厳しい・地域枠との相性が悪い・研修の場が制限され過ぎている・へき地勤務がある・大都市に偏りがある・ローテーションで引っ越しが

必須・地方勤務が半ば強制

・**医師不足・偏在（12件）**

外科/内科が減っている・指導医不足

・**悪くなった（12件）**

資格要件が面倒になった・専門医プログラムが限られたものしかなく以前のように柔軟性がなくなった・研修参加の義務が増えた・旧制度より取得しづらい・多忙さが加速・制度による締めつけ、取り込みが悪化した

・**その他（78件）**

まだ日が浅い・指導医しだい・柔軟じゃない・柔軟な勤務体系を導入しづらい・不備が多い・現状に即していない・若い人のことばかり考えている・学会費等が高すぎる・利権まみれ・大学偏重・医局しだい・大学病院のような規模のところでは充分な研修プログラムを受けられない・融通がきかない・性差と関係ないのでは・性別の違いによる配慮はない・男女ともにキャリア形成する必要はない・科により考え方が異なる・足枷になっている

医師の働き方改革が始まり、仕事と生活の調和がとりやすくなりましたか（思わない、あまり思わないを選択した方の理由の回答）

・**変化がない・変化を感じない（850件）**

仕事量・患者数は変わらない・実感がない

・**仕事が増えた・働きにくくなった（529件）**

管理職/上級医の負担が増えた・一部の医師の負担が増えた・以前より忙しい・仕事が増えた・自由度が減った・休みにくい・レベルが下がった・仕事時間を作りにくい、管理職の負担が増えた・忙しく大変になった・一部への負担が増えた・意識が低下した・若い人が働かなくなった・もっと仕事をしたいのにできなくなった・不自由になった

・**サービス残業の増加・収入の減少（178件）**

時間外が自己研鑽になった・サービス残業が増えた・超過勤務をつけられなくなった・実際の勤務時間より少ない時間で申請することを強要される・残った仕事は勤務場所以外で働いている・仕事は変わらないが超過手当が減った・今まで業務だったものが自己研鑽になった・バイトができず収入が減った

・**人手不足（101件）**

当直明け帰宅による人員減・医師偏在・一人医局・絶対数が足りない

・**その他（235件）**

柔軟な勤務体系は難しい・仕事量が多い・実態と異なる・改革になっていない・制約が多すぎる・宿直制度が悪用されている・完全シフト制にしないと不可能・時間合わせだけで支援がない・職場による・制度が現実には即していない・仕事と生活調和を選択しないという考え方がない・休みをとりづらい・タスクシフトが上手くできていない・元に戻すべき・以前から働きやすかった・もともと調和がとれていた

【V. 家庭での家事分担について】

(同居の家族等がいる方にお伺いします) 家庭における家事の役割分担について (その他の回答)

【理想】

(主に男性)

- ・洗車

(男女同程度)

- ・生活費の支払い
- ・主たる収入
- ・主たる支出
- ・所得の家族への貢献金額
- ・車の運転
- ・交遊・趣味

【現実】

(主に男性)

- ・集まり、町内会など
- ・家計のための収入を得る
- ・生活費の支払い
- ・主たる収入
- ・レジャー
- ・子どもの通院
- ・車の運転
- ・仕事量
- ・マンション管理組合
- ・洗車

- ・家庭内レクリエーション
- ・動物の世話
- ・ペットの世話（2件）
- ・運転
- ・リサイクルの当番
- ・畑仕事（2件）
- ・交遊・趣味
- ・自家用車の点検
- ・力仕事

（主に女性）

- ・子どもの病休
- ・送迎
- ・仕事の秘書的な役割
- ・時短勤務などの就労制限
- ・主たる支出

（男女同程度）

- ・公的届出等

【VI. 育児について（同居のお子さんがいる方）】

（育児休暇をとらなかったを選択した方にお伺いします）育児休暇をとらなかった理由は何ですか（その他を選択した方の回答）

・キャリアのため（137件）

キャリア形成で不利・他の医師に遅れをとる・研修期間の方が重要

・とれる環境ではなかった（60件）

職場から断られた・上司が許可しなかった・自分の代わりがない・管理職でとれなかった・異動直後で言えなかった、他にとった人がいない・一人医長のため

・制度がなかった（53件）

制度がなかった・時代じゃなかった

・とる必要がなかった（31件）

妻が望まなかった・家庭で検討した結果・学生だった・海外にいた・有休で対応できた

・その他（30件）

知らなかった・夏期休暇としてとった・制度が不十分のため・適宜休みをもらった・休みたくなかった・とるという選択肢がなかった・お金が必要だった

（同居に未就学児がいる方にお伺いします）ご自身が勤務中のお子さんの保育状況（その他の回答）

・幼稚園（38件）

・プレスクール（1件）

・週一で一時預かり（1件）

・母親育休中（1件）

・配偶者の両親が時に手伝ってくれる

・療育（1件）

【VII. 介護について（介護をしている方・同居別居は問いません）】

どなたを介護されていますか（その他の回答）

- ・ 祖父母（14 件）
- ・ 兄弟・兄妹（7 件）
- ・ 叔母・伯父（6 件）
- ・ 子ども（5 件）
- ・ 配偶者・パートナー（3 件）
- ・ 配偶者（2 件）
- ・ 親族（2 件）
- ・ 配偶者の姉（1 件）

主にどなたが介護をしていますか（その他の回答）

- ・ 介護施設（80 件）
- ・ 病院（3 件）
- ・ 訪問看護・医師（2 件）
- ・ 被介護者の配偶者・パートナー（2 件）
- ・ 近隣人（1 件）
- ・ みんなで（1 件）

5. 単純集計表

都道府県別回答者

総数	5,112	100.0
北海道	262	5.1
青森県	66	1.3
岩手県	56	1.1
宮城県	98	1.9
秋田県	72	1.4
山形県	71	1.4
福島県	84	1.6
茨城県	147	2.9
栃木県	21	0.4
群馬県	79	1.5
埼玉県	117	2.3
千葉県	163	3.2
東京都	438	8.6
神奈川県	279	5.5
新潟県	99	1.9
富山県	90	1.8
石川県	138	2.7
福井県	36	0.7
山梨県	10	0.2
長野県	170	3.3
岐阜県	111	2.2
静岡県	143	2.8
愛知県	243	4.8
三重県	117	2.3
滋賀県	70	1.4
京都府	116	2.3
大阪府	321	6.3
兵庫県	213	4.2
奈良県	36	0.7
和歌山県	39	0.8
鳥取県	35	0.7
島根県	52	1.0
岡山県	102	2.0
広島県	102	2.0
山口県	49	1.0
徳島県	42	0.8
香川県	33	0.6
愛媛県	121	2.4
高知県	52	1.0
福岡県	264	5.2
佐賀県	24	0.5
長崎県	60	1.2
熊本県	60	1.2
大分県	44	0.9
宮崎県	28	0.5
鹿児島県	71	1.4
沖縄県	66	1.3
不明	2	0.0

1. ご自身について 年齢

	総数	20歳台	30歳台	40歳台	50歳台	60歳台	無回答
総数	5112 100.0	412 8.1	1100 21.5	1313 25.7	1354 26.5	913 17.9	20 0.4

1. ご自身について 結婚について

	総数	未婚	既婚	事実婚 (パートナー)	離別・死別	無回答
総数	5112 100.0	558 10.9	4381 85.7	85 1.7	71 1.4	17 0.3

1. ご自身について 結婚について・配偶者の職業

	該当者	医師	医師以外	専業主婦	無回答
総数	4381 100.0	873 19.9	1494 34.1	1649 37.6	365 8.3

1. ご自身について 結婚について・パートナーの職業

	該当者	医師	医師以外	専業主婦	無回答
総数	85 100.0	4 4.7	13 15.3	3 3.5	65 76.5

1. ご自身について 同居している家族等（複数選択可）

	総数	配偶者・ パートナー	親（義理 を含む）	子ども	その他	同居人は いない	無回答
総数	5112 100.0	4092 80.0	214 4.2	3012 58.9	40 0.8	729 14.3	28 0.5

1. ご自身について 同居している家族等の人数（義理を含む）

	該当者	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	平均 (人)
総数	214 100.0	115 53.7	85 39.7	5 2.3	1 0.5	0 0.0	8 3.7	1.5 1.5

1. ご自身について 同居している家族等の人数（子ども×未就学児）

	該当者	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	平均 (人)
総数	3012 100.0	705 23.4	330 11.0	31 1.0	0 0.0	1 0.0	1945 64.6	1.4 1.4

1. ご自身について 同居している家族等の人数（子ども×小学生）

	該当者	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	平均 (人)
総数	3012 100.0	736 24.4	386 12.8	37 1.2	1 0.0	0 0.0	1852 61.5	1.4 1.4

1. ご自身について 同居している家族等の人数（子ども×中学生）

	該当者	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	平均 (人)
総数	3012 100.0	653 21.7	58 1.9	2 0.1	0 0.0	0 0.0	2299 76.3	1.1 1.1

1. ご自身について 同居している家族等の人数（子ども×高校生以上）

	該当者	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	平均 (人)
総数	3012 100.0	865 28.7	326 10.8	68 2.3	4 0.1	0 0.0	1749 58.1	1.4 1.4

1. ご自身について 同居している家族等の人数（その他）

	該当者	1人	2人	3人	4人	5人以上	無回答	平均 (人)
総数	40 100.0	28 70.0	3 7.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 22.5	1.1 1.1

II. 勤務の状況について 勤務病院の規模

	総数	500床以上	200～499床	100～199床	100床未満	無回答
総数	5112 100.0	1685 33.0	3015 59.0	355 6.9	20 0.4	37 0.7

II. 勤務の状況について 診療科（主となる科を1つ）

総数	5,112	100.0
臨床研修医	170	3.3
内科	1,583	31.0
小児科	302	5.9
皮膚科	84	1.6
精神科	169	3.3
外科	700	13.7
整形外科	393	7.7
産婦人科	175	3.4
眼科	74	1.4
耳鼻咽喉科	130	2.5
泌尿器科	213	4.2
脳神経外科	183	3.6
放射線科	124	2.4
麻酔科	164	3.2
病理	36	0.7
臨床検査	6	0.1
救急科	115	2.2
形成外科	70	1.4
リハビリテーション科	43	0.8
総合診療科	98	1.9
その他	257	5.0
無回答	23	0.4

II. 勤務の状況について 役職

	総数	病院管理者	所属部署の長	一般職員（主に指導する側）	一般職員（主に指導される側）	無回答
総数	5112 100.0	588 11.5	2331 45.6	1500 29.3	673 13.2	20 0.4

II. 勤務の状況について 1週間の実勤務時間（ご自身が医師として働いていると感じている時間）

	総数	10時間未満	10時間以上～20時間未満	20時間以上～30時間未満	30時間以上～40時間未満	40時間以上～50時間未満	50時間以上～60時間未満	60時間以上～70時間未満	70時間以上	無回答	平均（時間）
総数	5112 100.0	254 5.0	206 4.0	33 0.6	143 2.8	1577 30.8	1615 31.6	858 16.8	374 7.3	52 1.0	47.5 47.5

Ⅲ. 男女共同参画に関する意識について 医療界における男女共同参画について、どのように感じていますか

	総数	非常に進んでいる	ある程度進んでいる	社会全体と同程度	あまり進んでいない	全く進んでいない	無回答	進んでいる(計)	進んでいない(計)
総数	5112 100.0	213 4.2	1595 31.2	1671 32.7	1396 27.3	125 2.4	112 2.2	1808 35.4	1521 29.8

Ⅲ. 男女共同参画に関する意識について 男性医師と女性医師のキャリア形成には差があると感じますか

	総数	大きな差がある	多少の差がある	ほとんど差はない	全く差はない	無回答	差がある(計)	差はない(計)
総数	5112 100.0	1639 32.1	2803 54.8	507 9.9	56 1.1	107 2.1	4442 86.9	563 11.0

Ⅲ. 男女共同参画に関する意識について 現在の職場において、男女を問わず仕事と家庭を両立しやすい環境が整っていると思いますか

	総数	そう思う(支援はもう充分)	そう思う(さらなる支援は必要)	そう思わない	どちらとも言えない	そもそもどのような制度等が整備されている	無回答
総数	5112 100.0	370 7.2	2247 44.0	1735 33.9	460 9.0	190 3.7	110 2.2

Ⅲ. 男女共同参画に関する意識について 現在の職場において、男性医師と女性医師が管理職に就く機会は平等だと思いますか

	総数	男性の方が優遇されている	どちらかと言えば男性の方が優遇されている	平等	どちらかと言えば女性の方が優遇されている	女性の方が優遇されている	無回答	男性優遇(計)	女性優遇(計)
総数	5112 100.0	601 11.8	2064 40.4	2143 41.9	144 2.8	45 0.9	115 2.2	2665 52.1	189 3.7

Ⅲ. 男女共同参画に関する意識について 前問で1. または2. を選択した方にお伺いします。女性医師が管理職になりにくい理由は何だと思いますか(複数選択可)

	該当者	管理職を希望する女性医師が少ない	育児や家庭の事情で時間的制約がある	女性管理職のロールモデルが少ない	男性中心の昇進文化がある	そもそも適任者がいない	その他	無回答
総数	2665 100.0	1258 47.2	2042 76.6	1133 42.5	375 14.1	338 12.7	94 3.5	5 0.2

III. 男女共同参画に関する意識について 現在の職場において、選択肢に揚げる考え方（アンコンシャス・バイアスがあると感じますか（複数選択可））

	総数	女性医師は管理職に向いていない	女性は出産・育児でキャリアが中断されるた	女性医師は手術や体力のいる仕事には向かない	男性医師は家庭よりも仕事を優先すべきだ	女性医師は支援されて当然	そのような考え方は特に感じない	無回答
総数	5112 100.0	129 2.5	1436 28.1	521 10.2	550 10.8	666 13.0	2680 52.4	151 3.0

III. 男女共同参画に関する意識について 男女共同参画をさらに促進するために、職場でどのような施策が必要だと思いますか（複数選択可）

	総数	育児・介護支援の充実	柔軟な勤務体系（時短・フレックスなど）	女性管理職の積極的登用	男性の育児・家庭参加の促進	男女共同参画に関する研修や情報提供	その他	無回答
総数	5112 100.0	2929 57.3	3519 68.8	999 19.5	2292 44.8	918 18.0	411 8.0	166 3.2

IV. 制度改革による影響 新専門医制度は男女ともにキャリア形成するための配慮がされていると思いますか

	総数	そう思う	そう思わない	わからない	無回答
総数	5112 100.0	1049 20.5	899 17.6	3051 59.7	113 2.2

IV. 制度改革による影響 医師の働き方改革が始まり、仕事と生活の調和がとりやすくなりましたか

	総数	そう思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない	無回答	思う（計）	思わない（計）
総数	5112 100.0	437 8.5	2228 43.6	1228 24.0	1105 21.6	114 2.2	2665 52.1	2333 45.6

V. 家庭での家事分担について 家庭における家事の役割分担について

	該当者	現状のま まで良い と思う	改善した 方がよい と思う	無回答
総数	4383 100.0	2916 66.5	1435 32.7	32 0.7

V. 家庭での家事分担について 家庭での家事分担について（理想）

	該当者	主に男性	主に女性	男女同じ 程度	その他	無回答
(1) 食事の仕度	2171 100.0	20 0.9	576 26.5	1302 60.0	94 4.3	179 8.2
(2) 食事の片付け	2171 100.0	206 9.5	158 7.3	1557 71.7	72 3.3	178 8.2
(3) 家・風呂の掃除	2171 100.0	147 6.8	170 7.8	1596 73.5	74 3.4	184 8.5
(4) ゴミだし	2171 100.0	426 19.6	66 3.0	1424 65.6	75 3.5	180 8.3
(5) 洗濯	2171 100.0	64 2.9	324 14.9	1519 70.0	78 3.6	186 8.6
(6) 食品・日用品の買い物	2171 100.0	46 2.1	327 15.1	1533 70.6	80 3.7	185 8.5
(7) 家の修繕・修理	2171 100.0	690 31.8	43 2.0	1120 51.6	136 6.3	182 8.4
(8) 家計管理	2171 100.0	143 6.6	272 12.5	1461 67.3	113 5.2	182 8.4
(9) 子どもの世話・指導	2171 100.0	9 0.4	239 11.0	1641 75.6	89 4.1	193 8.9
(10) 乳幼児の世話	2171 100.0	6 0.3	512 23.6	1345 62.0	108 5.0	200 9.2
(11) 保育園・習い事の送り迎え	2171 100.0	47 2.2	237 10.9	1576 72.6	109 5.0	202 9.3
(12) 親の世話	2171 100.0	30 1.4	65 3.0	1667 76.8	214 9.9	195 9.0
(13) 学校の役員	2171 100.0	55 2.5	199 9.2	1486 68.4	227 10.5	204 9.4
(14) 保護者会・運動会等学校の行事	2171 100.0	30 1.4	136 6.3	1642 75.6	164 7.6	199 9.2
(15) 地域の役員	2171 100.0	122 5.6	113 5.2	1501 69.1	227 10.5	208 9.6
(16 a) その他	2171 100.0	3 0.1	1 0.0	27 1.2	5 0.2	2135 98.3
(16 b) その他	2171 100.0	0 0.0	1 0.0	22 1.0	3 0.1	2145 98.8
(16 c) その他	2171 100.0	0 0.0	2 0.1	19 0.9	3 0.1	2147 98.9

V. 家庭での家事分担について 家庭での家事分担について（現実）

	該当者	主に男性	主に女性	男女同じ程度	その他	無回答
(1) 食事の仕度	4351 100.0	139 3.2	3501 80.5	462 10.6	65 1.5	184 4.2
(2) 食事の片付け	4351 100.0	730 16.8	2006 46.1	1362 31.3	65 1.5	188 4.3
(3) 家・風呂の掃除	4351 100.0	625 14.4	2014 46.3	1422 32.7	91 2.1	199 4.6
(4) ゴミだし	4351 100.0	1823 41.9	1210 27.8	1066 24.5	63 1.4	189 4.3
(5) 洗濯	4351 100.0	315 7.2	2834 65.1	958 22.0	48 1.1	196 4.5
(6) 食品・日用品の買い物	4351 100.0	259 6.0	2528 58.1	1319 30.3	55 1.3	190 4.4
(7) 家の修繕・修理	4351 100.0	2177 50.0	569 13.1	1062 24.4	339 7.8	204 4.7
(8) 家計管理	4351 100.0	1026 23.6	1721 39.6	1270 29.2	141 3.2	193 4.4
(9) 子どもの世話・指導	4351 100.0	79 1.8	2179 50.1	1332 30.6	468 10.8	293 6.7
(10) 乳幼児の世話	4351 100.0	37 0.9	2658 61.1	580 13.3	704 16.2	372 8.5
(11) 保育園・習い事の送り迎え	4351 100.0	140 3.2	2304 53.0	876 20.1	674 15.5	357 8.2
(12) 親の世話	4351 100.0	146 3.4	820 18.8	1877 43.1	1191 27.4	317 7.3
(13) 学校の役員	4351 100.0	168 3.9	2029 46.6	751 17.3	1057 24.3	346 8.0
(14) 保護者会・運動会等学校の行事	4351 100.0	117 2.7	1663 38.2	1464 33.6	774 17.8	333 7.7
(15) 地域の役員	4351 100.0	586 13.5	1291 29.7	1038 23.9	1113 25.6	323 7.4
(16 a) その他	4351 100.0	17 0.4	9 0.2	16 0.4	15 0.3	4294 98.7
(16 b) その他	4351 100.0	5 0.1	8 0.2	13 0.3	12 0.3	4313 99.1
(16 c) その他	4351 100.0	1 0.0	6 0.1	13 0.3	12 0.3	4319 99.3

V. 家庭での家事分担について ご自身が分担している家事の量について

	該当者	充分していると思う	まだ足りないと思う	まったくしていないと思う	無回答
総数	4383 100.0	1403 32.0	2369 54.0	471 10.7	140 3.2

VI. 育児について

	該当者	充分していると思う	まだ足りないと思う	まったくしていないと思う	無回答
総数	3022 100.0	847 28.0	1806 59.8	233 7.7	136 4.5

VI. 育児について 育児休暇について

	該当者	育児休暇をとった	育児休暇をとらなかった	無回答
総数	3022 100.0	293 9.7	2608 86.3	121 4.0

VI. 育児について 育児休暇取得期間

該当者	293	100.0
1日	9	3.1
2日	12	4.1
3日	11	3.8
4日	5	1.7
5日	29	9.9
6日	4	1.4
7日	44	15.0
8日	1	0.3
9日	0	0.0
10～29日	76	25.9
30～99日	81	27.6
100日以上	12	4.1
無回答	9	3.1
平均（日）	26	26.3

VI. 育児について 育児休暇をとらなかった理由は何ですか（複数選択可）

	該当者	多忙で取得できなかった	希望はあったが職場に言い出せなかった	希望はあったが収入の問題で諦めた	考えたことがなかった	その他	無回答
総数	2608 100.0	1151 44.1	364 14.0	166 6.4	919 35.2	321 12.3	6 0.2

VI. 育児について ご自身が勤務中のお子さんの保育状況（複数選択可）

	該当者	保育園に預けている	自宅で配偶者・パートナーがみている	自宅でベビーシッターを利用している	自宅で配偶者・パートナー以外の家族が	その他	無回答
総数	1068 100.0	631 59.1	479 44.9	13 1.2	30 2.8	45 4.2	15 1.4

VII. 介護について

	該当者	充分していると思う	まだ足りないと思う	まったくしていないと思う	無回答
総数	1835 100.0	246 13.4	785 42.8	800 43.6	4 0.2

VII. 介護について どなたを介護されていますか（複数選択可）

	該当者	自分の親	配偶者・パートナーの親	その他	無回答
総数	1835 100.0	833 45.4	390 21.3	78 4.3	693 37.8

VII. 介護について どなたを介護されていますか（自分の親）

	該当者	片親	両親	無回答
総数	833 100.0	602 72.3	202 24.2	29 3.5

VII. 介護について どなたを介護されていますか（配偶者・パートナーの親）

	該当者	片親	両親	無回答
総数	390 100.0	261 66.9	110 28.2	19 4.9

VII. 介護について 主にどなたが介護をしていますか（割合）

	該当者	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	無回答	平均(割合)
ご自身	1158 100.0	338 29.2	200 17.3	123 10.6	64 5.5	31 2.7	95 8.2	12 1.0	17 1.5	20 1.7	19 1.6	71 6.1	168 14.5	2.5
配偶者・パートナー	1158 100.0	379 32.7	97 8.4	69 6.0	39 3.4	27 2.3	101 8.7	24 2.1	35 3.0	56 4.8	64 5.5	99 8.5	168 14.5	3.4
その他の家族	1158 100.0	589 50.9	60 5.2	34 2.9	26 2.2	20 1.7	48 4.1	20 1.7	28 2.4	42 3.6	42 3.6	81 7.0	168 14.5	2.4
ヘルパー	1158 100.0	829 71.6	30 2.6	21 1.8	15 1.3	12 1.0	23 2.0	12 1.0	9 0.8	24 2.1	4 0.3	11 0.9	168 14.5	0.8
その他	1158 100.0	854 73.7	31 2.7	19 1.6	7 0.6	2 0.2	4 0.3	8 0.7	6 0.5	12 1.0	17 1.5	30 2.6	168 14.5	0.8

6. 調査票

日本医師会男女共同参画についての男性医師の意識調査

日本医師会男女共同参画委員会では、平成 26 年に「男女共同参画についての男性医師の意識調査」を行いました (https://www.med.or.jp/doctor/female/research_men/)。当時は、出産等により仕事を中断し、そのまま復職できない女性医師が多くおり、家事や子育ての負担が女性に偏っているのではないかという疑問から、その実態と男性の意識を調査することが主な目的でした。

そこから 10 年が経過し、社会の風潮や医師を取り巻く環境が大きく変化しました。勤務環境の整備が進み、仕事を続ける女性も増えていますが、いまだジェンダーギャップ指数は 2024 年で 146 か国中 118 位であり、医療界においても女性の管理者は少なく、性別による診療科の偏りも見られます。

平成 26 年の本調査では、女性医師の配偶者は 6 割以上が男性医師であることから（「女性医師の勤務環境の現況に関する調査（日本医師会女性医師支援センター,平成 21 年）」）、病院に勤務する幅広い年齢層の男性医師を調査対象としました。今回も、公私ともに女性医師のパートナーである男性医師を調査対象とし、経年の変化を見ることが出来る質問は極力残し、時代にそぐわない質問は整理しました。今年は、上述の女性医師に対する調査の 3 回目も実施しています。両調査の結果を考察して、男性も女性も働きやすい医療界を作る一助としたいと考えております。

つきましては、お忙しいところ大変ご面倒をおかけいたしますが、本調査の主旨をご理解いただき、ぜひご協力くださいますようお願いいたします。

なお、ご回答いただいた内容はすべて統計的に処理し、個人や病院を特定できない形で公表し、目的以外には使用いたしません。

令和 7 年 4 月

日本医師会男女共同参画委員会

ご記入にあたってのお願い

- * 20 歳台から 60 歳台の男性医師にご回答をお願いします。
- * 回答は調査票に直接ご記入ください。
- * 回答が終わりましたら、調査票を同封の返信用封筒に入れ、
5 月 16 日（金）までにポストに投函してください。
- * 本調査は、中央調査社に実施協力を依頼しています。

お問合せ先 日本医師会総務課

TEL 03-3942-6481 FAX 03-3946-6295

男女共同参画についての男性医師の意識調査

調査票

【1. ご自身についてお答えください】

年齢 (選択は1つ)	1. 20歳台 2. 30歳台 3. 40歳台 4. 50歳台 5. 60歳台
---------------	---

結婚について ※既婚または事実婚を選択された方は、配偶者、パートナーの職業もお答えください (選択は1つ)	1. 未婚 2. 既婚 〔配偶者の職業は (a 医師 b 医師以外 c 専業主婦)〕 3. 事実婚 (パートナー) 〔パートナーの職業は (a 医師 b 医師以外 c 専業主婦)〕 4. 離別・死別
---	--

同居している家族等 (複数選択可)	1. 配偶者・パートナー 2. 親 (義理を含む) (人) 3. 子ども a 未就学児 (人) b 小学生 (人) c 中学生 (人) d 高校生以上 (人) 4. その他 () (人) 5. 同居人はいない
----------------------	--

【Ⅲ. 男女共同参画に関する意識について】

<p>医療界における男女共同参画について、どのように感じていますか (選択は1つ)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 非常に進んでいる 2. ある程度進んでいる 3. 社会全体と同程度 4. あまり進んでいない 5. 全く進んでいない
---	---

<p>男性医師と女性医師のキャリア形成には差があると感じますか (選択は1つ)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大きな差がある 2. 多少の差がある 3. ほとんど差はない 4. 全く差はない
---	--

<p>現在の職場において、男女を問わず仕事と家庭を両立しやすい環境が整っていると思いますか (選択は1つ)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. そう思う (支援はもう充分) 2. そう思う (さらなる支援は必要) 3. そう思わない 4. どちらとも言えない 5. そもそもどのような制度等が整備されているか知らない
---	---

<p>現在の職場において、男性医師と女性医師が管理職に就く機会は平等だと思いますか (選択は1つ)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 男性の方が優遇されている 2. どちらかと言えば男性の方が優遇されている 3. 平等 4. どちらかと言えば女性の方が優遇されている 5. 女性の方が優遇されている
---	---

<p>(前問で「1. 男性の方が優遇されている」または「2. どちらかと言えば男性の方が優遇されている」を選択した方にお伺いします)</p> <p>女性医師が管理職になりにくい理由は何だと思いますか</p> <p>(複数選択可)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 管理職を希望する女性医師が少ない 2. 育児や家庭の事情で時間的制約がある 3. 女性管理職のロールモデルが少ない 4. 男性中心の昇進文化がある 5. そもそも適任者がいない 6. その他 ()
--	---

<p>現在の職場において、選択肢に掲げる考え方(アンコンシャス・バイアス)があると感じますか</p> <p>(複数選択可)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性医師は管理職に向いていない 2. 女性医師は出産・育児でキャリアが中断されるため、重要な役職を任せづらい 3. 女性医師は手術や体力のいる仕事には向かない 4. 男性医師は家庭よりも仕事を優先すべきだ 5. 女性医師は支援されて当然 6. そのような考え方は特に感じない
---	---

<p>男女共同参画をさらに促進するために、職場でどのような施策が必要だと思いますか</p> <p>(複数選択可)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 育児・介護支援の充実 2. 柔軟な勤務体系(時短・フレックスなど)の導入 3. 女性管理職の積極的登用 4. 男性の育児・家庭参加の促進 5. 男女共同参画に関する研修や情報提供 6. その他 ()
--	--

【IV. 制度改革による影響】

<p>新専門医制度は男女ともにキャリア形成するための配慮がされていると思いますか (選択は1つ)</p>	<p>1. そう思う 2. そう思わない (理由:) 3. わからない</p>
--	--

<p>医師の働き方改革が始まり、仕事と生活の調和がとりやすくなりましたか (選択は1つ)</p>	<p>1. そう思う 2. ややそう思う 3. あまり思わない (理由:) 4. 思わない (理由:)</p>
--	---

【V. 家庭での家事分担について】

<p>(同居の家族等がいる方にお伺いします) 家庭における家事の役割分担について (選択は1つ)</p>	<p>1. 現状のままで良いと思う 2. 改善した方がよいと思う</p>
--	---

①同居人がいない方は、 A.理想のみをお答えください ②前問で「1」と答えた方は、 B.現実のみをお答えください ③前問で「2」と答えた方は、 A.理想と B.現実をお答えください	A. 理想				B. 現実			
	主に男性	主に女性	男女同じ程度	その他	主に男性	主に女性	男女同じ程度	その他
食事の仕度	1	2	3	4	1	2	3	4
食事の片付け	1	2	3	4	1	2	3	4
家・風呂の掃除	1	2	3	4	1	2	3	4
ゴミだし	1	2	3	4	1	2	3	4
洗濯	1	2	3	4	1	2	3	4
食品・日用品の買い物	1	2	3	4	1	2	3	4
家の修繕・修理	1	2	3	4	1	2	3	4
家計管理	1	2	3	4	1	2	3	4
子どもの世話・指導	1	2	3	4	1	2	3	4
乳幼児の世話	1	2	3	4	1	2	3	4
保育園・習い事の送り迎え	1	2	3	4	1	2	3	4
親の世話	1	2	3	4	1	2	3	4
学校の役員	1	2	3	4	1	2	3	4
保護者会・運動会等学校の行事	1	2	3	4	1	2	3	4
地域の役員	1	2	3	4	1	2	3	4
その他(具体的にご記入ください)								
a ()	1	2	3	4	1	2	3	4
b ()	1	2	3	4	1	2	3	4
c ()	1	2	3	4	1	2	3	4

おわりに

今回、10年ぶりに新たな質問項目も加え本調査を実施した。この10年間で、社会のジェンダーへの意識が変わり、また「医師の働き方改革」や「新専門医制度」など、医師を取り巻く環境も変化している中で、男性医師の意識や働き方にもどのような影響があったかを把握したい思いから実施に至った。

結果として、20歳台の若い男性医師の男女共同参画についての意識には変化が見られるが、家庭や子どもを持つ30歳台になると、変化は小さくなることが分かった。家事分担においても、男性の思いとは裏腹に、未だ多くの家事を女性が担っている実情が露になった。先に実施した「女性医師の勤務環境の現況に関する調査」においても、女性医師の悩みは過去3回とも変わらず「家庭と仕事の両立」である。改善は見られるものの、男女共同参画委員会が発足した当時の課題は、未だに課題のままであることを改めて認識した。

前回の調査では、男女共同参画を進めるために最も問題となるのは家事の担い手や子どもの預け先であったが、今回の調査では男女共同参画以前に、人が足りないという切実な悲鳴が回答から聞こえてきた。私たちは男女ともにワーク・ライフ・バランスを保てる勤務環境を推進してきたが、人が足りない中で誰かが休めば、そのしわ寄せを受ける人が必ずいる。一方で、労働時間に制限がかかるようになり、働きたい人に思う存分働いてもらうことも難しい。

日本の医療を守るためには、こうした現場の声を拾い、原資となる診療報酬をしっかりと確保し、より負担の少ない制度へ改善するよう働きかけていくしかない。医師会が長きに渡り続けてきた活動の重要性が、ますます高まっている今、医療の現場を変える力のある、強い医師会であることを望む。

令和8年5月

日本医師会男女共同参画委員会
副委員長 今野信太郎